

浦安景観まちづくり啓発事業報告書



2014 年度浦安市協働事業

うらやす景観まちづくりフォーラム

2015 年 3 月

目 次

浦安景観まちづくり啓発事業計画	1
浦安景観まちづくり連続講座	3
第1回浦安景観まちづくり講座	4
浦安景観まち歩き	7
第2回浦安景観まちづくり講座	9
第3回浦安景観まちづくり講座	12
第4回浦安景観まちづくり講座	15
第5回浦安景観まちづくり講座	21
第6回浦安景観まちづくり講座	24
こども浦安景観まちづくり講座	27
うらやす景観通信	31
うら景まち広場	32
講座参加者アンケート	33
事業報告	44

■事業の目的

協働の景観まちづくりが景観ブランドを再生

- ・景観計画・景観条例の周知が、景観まちづくりを推進
- ・ターゲットを絞った講座とし、街育てへの参画を促す
- ・市民の視点から街づくりへの提案するきっかけづくり
- ・景観への関心の高まりが街を育て、景観ブランドを再生
- ・まち歩きなどにより、景観資源リストの更新を図る

■景観まちづくりの課題

景観計画の周知が足りなく、協働のまちづくりが進んでいない

- ・地区住民の取組みや仕掛けが求められている
- ・景観維持のルールづくりや支援が求められている
- ・地域開発は、まちなみ形成への配慮が強く求められる
- ・震災前のみどり豊かな美しい景観にもどれるか懸念
- ・景観計画・条例施行の市民・事業者への周知不足

■協働の必要性

市民・事業者・市が協働で景観まちづくりを推進

- ・市民・事業者に景観の大切さを伝える必要性が高まる
- ・H20-22 景観基礎講座、実践講座を実施するも震災でストップ
- ・市は景観条例協議に追われ、協働の取組みはストップ
- ・市民の視点での景観講座・景観広報活動が必要になる
- ・協働で景観まちづくりが推進できる取組み・組織が必要

■事業内容

- ・景観まちづくり講座とまち歩き
- ・情報発信のホームページ制作と更新
- ・うらやす景観通信により市民・行政との情報共有を深める
- ・景観資源リストの追記・整理

■協働の効果

- ・浦安の愛着が深まり、街育てへ参画する市民・事業者が増加
- ・市民の視点からの街づくりへの提案が増える
- ・景観へ関心が高まり、まち育てが進められる
- ・景観ブランドの再生により、街の資産の再生が進む

■景観まちづくり講座の内容

ターゲットにあわせた講座内容

- ・一般市民向け講座は、まち歩きを含めて行い、気づき、活動へのきっかけ探しを行う
- ・事業者向け講座では、景観条例の必要性、景観に配慮した建築・屋外広告についての学習を深める
- ・建築設計の専門家とのネットワークを促進する
- ・地区向け講座は、居住地環境や景観を維持するためのルールづくりが必要な地区を選定
- ・団体向け講座では、景観まちづくり団体の連携を図る
- ・子ども向け講座は、身近な好きな場所探しが中心に

■景観まちづくり講座実施状況

月 日	名 称	内 容	一般参加者	フォーラム等
5月18日	第1回景観まちづくり講座	キックオフミーティング	22名	9名
6月15日	まち歩き第1回	境川沿い	4名	6名
7月20日	第2回景観まちづくり講座	水辺の景観を考える	17名	8名
8月7日	こども向け講座	浦安こどもまち探検隊	11名+親1名 (小6年2名、小4年8名、 小2年1名)	5名
8月20日	こども向け追加講座	追加講座まとめ作業	5名 (小6年1名、小4年4名)	2名
8月31日	まち歩き第2回	弁天・見明川・東野		6名
9月21日	第3回景観まちづくり講座	みどりの景観を考える	20名	6名
11月30日	第4回景観まちづくり講座	住環境の景観を考える	72名	12名
1月18日	第5回景観まちづくり講座	建築時の景観への配慮	17名	7名
3月15日	第6回景観まちづくり講座	景観シンポジウム	17名	7名



参加者募集

2014 年度浦安市協働事業

浦安景観まちづくり連続講座

浦安の景観の魅力は何？ 他のまちとは何が違うの？
浦安の景観は震災で壊れてしまったが、本当に再生できるの？
浦安の景観を良くするにはどうしたら良いの？

浦安市景観計画・景観条例が策定されていますがご存知ですか。震災により浦安の景観は壊れ、元のみどり豊かな美しい景観が再生されるのか懸念されます。浦安の景観ブランドを再生するために、浦安の景観を知る・景観を守る講座で、景観資源を活かした景観まちづくりを一緒に考えてみませんか。



プログラム

5/18(日)	キックオフミーティング	景観計画・条例などについて／ディスカッション
7/20(日)	水辺の景観を考える	境川のまち歩き／江戸川区親水空間整備・海岸の整備計画
9/21(日)	みどりの景観を考える	公園や街路樹を見て歩く／ふれあいの森公園・公共空間の緑
11/30(日)	住環境の景観を考える	新旧住宅地をまち歩き／街並みルールづくり・住宅地景観等 (景観まちづくり千葉協議会・千葉県と共同開催)
1/18(日)	建築時の景観への配慮	やなぎ通りのまち歩き／屋外広告・景観条例建築計画
3/15(日)	景観シンポジウム	基調講演／景観まちづくりの取組み／ディスカッション

場所：市民プラザWAVE101等 費用：200円
時間：午前まち歩き、午後講義/ディスカッション
募集人数：30名、1回の参加も可能
※内容が一部変更になる場合があります。
※雨天の場合、まち歩きは中止し午後から開催

受 付：浦安市都市計画課【FAX】047-353-4378
【Eメール】toshikei@city.urayasu.lg.jp
問合せ：うらやす景観まちづくりフォーラム
090-1764-9868 (浅川)
【Eメール】asakawa@comdesign.jp

うらやす景観まちづくりフォーラム 浦安市都市計画課

第1回

キックオフミーティング

2014 年度浦安市協働事業
浦安景観まちづくり連続講座



■開催概要

【月日】 5月18日(日)10時～12時半

【場所】 市民プラザ WEBE101 サロン6

【費用】 200円(資料等)

【内容】 浦安市の景観行政について

【対象】 市内在住・在勤・在学・事業者の方、先着30人

【申込】 氏名・年齢・性別・住所・電話番号をご記入のうえ、ファックスまたはEメールで都市計画課へ

【FAX】 047-353-4378

【Eメール】 toshikei@city.urayasu.lg.jp

【問合せ】 うらやす景観まちづくりフォーラム(浅川) 090-1764-9868

【Eメール】 asakawa@comdesign.jp

■浦安景観まちづくり連続講座の第1回は、これまでの取り組みを振り返り、参加者の自己紹介とディスカッションによって、これからの連続講座のキックオフとします。

これまでの市の取り組みとして、景観マスタープラン、景観計画、景観条例といった市で定めている計画等を紹介します。また、市の景観資源リストづくりをきっかけに結成された「うらやす景観まちづくりフォーラム」の取り組みとして、震災後続けてきた市内のまち歩きや先進事例視察の結果を紹介します。

この連続講座をきっかけに、浦安市での景観まちづくりのさらなる輪を広げていきたいと思います。すでに景観に関する取り組みをされている方、街並みや風景づくりを学んでみたい方、みなさんのご参加をお待ちしております。 ■

「浦安景観まちづくり講座」 キックオフミーティング（第1回）開催報告

浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働提案事業として、2014年度「浦安景観まちづくり講座」のキックオフミーティング（第1回）が、5月18日（日）WAVE101で開催されました。多くの方にご参加いただけるか不安もありましたが、会場はほぼ満席となりました。広報にご協力いただいたみなさん、ご参加のみなさんどうもありがとうございました。以下、当日の様子をご紹介します。



当日の会場の様子

最初に、都市計画課・板橋課長、うらやす景観まちづくりフォーラム（以下、フォーラム）会長・小林の挨拶がありました。板橋課長からは、2008、2009年度の市の景観まちづくり連続講座をきっかけに結成されたフォーラムと都市計画課の協働提案事業であり、講座をきっかけに協働の輪を広げたいという趣旨説明がありました。



都市計画課・板橋課長

小林からは、震災後フォーラム独自の取り組みを続けてきたが、協働提案事業が採択される

機会に恵まれ、これまで以上に市民目線からの景観まちづくり、市民・行政・事業者を結ぶ景観まちづくりのプラットフォームづくりに貢献したいとの表明がありました。



フォーラム会長・小林

その後、フォーラム・浦安まちづくりアドバイザーの浅川から「これまでの景観まちづくりに関する活動内容と今年度のスケジュール」について説明がありました。景観資源リストの収集、震災後の景観を確認するまちあるき、先進事例調査といったフォーラムの活動と、市民・事業者・子どもといった対象に着目して企画している全7回の講座内容の詳細について説明がありました。



フォーラム・浅川

続いて、景観計画の策定を担当されていた都市政策課の土久さんから、策定背景の紹介がありました。当時は「景観は京都や奈良など歴史あるまちでやるもの」という考えがあり、開発しながら景観をつくってきた浦安ではなじみがありませんでした。しかし、開発事業者の計画に店舗の大きな看板や原色に近い色彩の外壁についての協議の中で、開発事業者から「なぜいけないの？ いけないのであればルールをつく

ってください」と逆に言われてしまったことがあったそうです。また、2004年に景観法ができ、歴史あるまちだけでなく、やる気があれば全国どここのまちでも取り組める仕組みになったこと、浦安も守るべき景観があることなどから、景観計画を策定することになったそうです。景観計画の策定過程で多くの市民、関係者と議論を重ねたため3年を要し、その声を余すところなくまとめたため分厚い計画書になったとのことでした。



都市政策課・土久さん

景観計画は、第1編に景観まちづくりの考え方、第2編に規制誘導の方針、第3編に景観重要建築物・樹木の指定方針、第4編に景観まちづくりの考え方という構成です。第2編の規制誘導の方針にしたがって、現在市で建てられる一定規模以上の建築物は景観計画の事前協議・届出の対象となっています。

その規制誘導の実際について、都市計画課の谷川さんから紹介がありました。方針にしたがって植栽を植え空調室外機の修景をしている事例の紹介のあと、景観計画で定められた色彩よりも鮮やかな色をつかって外壁を塗装してしまった事務所建築に対して指導の結果、落ち着いた色に塗り替えてもらった事例の紹介がありました。



都市計画課・谷川さん

休憩のあと、参加者全員の方から自己紹介をしていただきました。お住まいでは元町1名、中町10名、新町8名、その他の地域3名の分布となりました。20代、30代の方もいらっしゃったことと、専門的な勉強をしている方、建築・土木・造園と景観に関する職業の方に多く来ていただいたことが特徴的でした。



参加者の自己紹介シート

質疑では、規制誘導だけではまちの景観はよくならないのでより大きな枠組みの取り組みが必要といったご意見や、市民が取り組む景観まちづくりのゴールは？といった本質的な質問をいただきました。私たちとしても1年間の講座をきっかけに、将来的に協働の取り組みが広がるきっかけとなることを期待しています。次回の「水辺の景観を考える」(第2回)にも、多くの方のご参加をお待ちしております。



2014 まち歩き

境川沿い元町・中町

海に囲まれた浦安市は、漁業と共に歩み、水害や地盤沈下に悩まされた歴史のある元町、宇田川家住宅や大塚家住宅の歴史的建造物や、細い路地や空地が残る地区です。

大三角線道路を渡ると護岸はレンガで整備され、川幅も広がります。東水門からは、堤防が歩道より高くなり、川を望むには橋の上からです。高洲橋より下流は、両側の歩行者専用道路も広くなり、桜の並木続きます。

元町、中町、新町を貫く境川ですが、それぞれの地区で川沿いの風景は違ってきます。



日時

6月15日（日曜日）10時

集合 東西線浦安駅前交番横
※雨天の場合は中止

- 10時 集合 東西線浦安駅前交番横
西水門～清龍神社～フラワー通り～中新橋～東水門～今川橋～高洲橋
- 12時 昼食
- 13時 ミーティング（WAVE101 OR 国際センター）
- 参加費 無料
- 用意するもの カメラ、水筒、メモ、歩きやすい服装 など

申込み・問合せ うらやす景観まちづくりフォーラム

E-mail : asakawa@comdesign.jp

携帯 : 090-1764-9868 (浅川)

2014 まち歩き「境川沿い元町・中町」開催報告

7月20日の浦安景観まちづくり連続講座「水辺の景観を考える」の下見を兼ねて6月15日(日)境川沿いのまち歩きを実施しました。今回は7月のまち歩きの案内役をお願いしている、浦安水辺の会事務局長の横山さんを含め総勢12名の方にご参加いただきました。境川は西水門から東京湾まで、護岸の構造、河川区域に接する道路や民地など景観的には大きくわけて、上、中、下流各々趣の異なる三つのエリアがあり、今回は上中流部分のみとなりました。浦安駅前交番横に集合し、西境橋～わかしお歩道橋まで約5kmを2時間かけて歩きました。

終了後のミーティングでは「説明のポイントを明確にしたほうが良い」、「折角レンガ張りの親水護岸にしたのに、あまり利用されていない。水辺を楽しめる積極的な提案を」、「人が集まりやすくする提案を政策担当者に伝えるのがフォーラムの役割ではないか」など一般参加の方から貴重なご意見をいただきました。

■境川沿い元町・中町のまち歩きの様子



浦安の景観の象徴西水門：いずれレンガ張りの親水護岸になるはずだが船は見当たらない。



境川沿いの建物：現存するかつての境川と縁の深い建物。



沿道の木陰：まちあるきの途中、木陰でひと休み。「ぼら」がたくさん泳いでいる。



珍しく開門中の東水門：イベント時以外は親水護岸沿いを散策する人をあまり見かけない。



左右天命弁財天：災いからまもってくれる猫実の弁天様として親しまれている。



境川護岸（今川橋付近）：かつては今川花の会で手入れされていた花壇があったが震災後は何も植えられていない。

第2回

水辺の景観を考える

2014 年度浦安市協働事業
浦安景観まちづくり連続講座



■開催概要

【月日】 7月20（日）10時～16時

【集合】 浦安中央公民館前 10時

【場所】 美浜南小学校内市民大学教室
市民大学専用門利用（浦安市美浜3-15-1）

【費用】 200円（資料等）

【内容】 水辺の景観を考える

【対象】 市内在住・在勤・在学・事業者の方、
40人程度

【問合せ】 うらやす景観まちづくりフォーラム（浅川）090-1764-9868

【申込】 氏名・年齢・性別・住所・電話番号
を記入のうえ、ファックス又はEメールで

【FAX】 03-6228-3504

【Eメール】 asakawa@comdesign.jp

【申込み期日】 7月18日（金曜日）

■浦安景観まちづくり連続講座の第2回、午前は浦安水辺の会の案内で境川沿いを元町から中町まで歩きます。午後は江戸川区親水空間整備と景観地区について、江戸川区の方からお話を聞きます。また、水辺の計画の情報を聞きながら、ディスカッションします。

浦安の景観を考える時、三方を海と川に囲まれ、内部にも多くの中小の河川や用水路が走る浦安の立地特性から「水辺」は極めて大切な景観資源です。

既に境川やしおかぜ緑道など、あるいは舞浜や高洲地先の一部などで水辺を活かした整備がなされております。市域全体の水辺の景観の将来像はどうなっているのか、現状どんな課題があるのか、市民ができることは、などについて先進事例を参考にしながら考えていきたいと思ひます。■

「浦安景観まちづくり講座」第2回 水辺の景観を考える 開催報告

浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働事業として、2014年度「浦安景観まちづくり講座」の第2回「水辺の景観を考える」(第2回)が、7月20日(日)午後、市民大学で開催されました。午前中には浦安水辺の会のみなさんによるまちあるきも実施されました。暑い中、総勢35名の方にご参加いただきました。どうもありがとうございました。以下、当日の様子をご紹介します。

■境川沿いの水辺まちあるき(浦安水辺の会・副代表の森泉さん)



浦安水辺の会・森泉さん

中央公民館に集合し、境川沿いを境川わかしお歩道橋まで歩きました。境川西水門で江戸川と境川の関係を確認し、新橋付近で工事施工前、施工中、施工後の護岸の様子を確認しました。しんなか橋界隈では土地区画整理事業できれいに生まれ変わったまちの样に驚きました。



まちあるきの様子(午前)

水辺の会のみなさんのガイドのおかげで、元町の漁村の名残が感じられる護岸、中町の水辺への階段が鎖で入れないようになっている護岸、今川橋付近の防災対策も考えられた護岸とさま

ざま水とまちの関係や、その背景を確認することができました。

■フォーラム「水辺の景観を考える」

午後はフォーラムを開催しました。

●1. 江戸川区の水と緑のまちづくり(えどがわ環境財団・事務局長 長谷川和男さん)



えどがわ環境財団 長谷川さん

・江戸川区の水と緑のまちづくりの歩み

江戸川区の水と緑のまちづくりは、昭和41年「江戸川区総合開発基本計画」にはじまる。もともと低湿地であり、ミニ開発、ゴミの投棄など環境問題があった。「ゆたかな心 地にみどり」を掲げて土地区画整理事業と下水道整備、公共緑化を進めることとした。

古川親水公園(昭和49年)は、生活排水が流れヘドロが溜まりゴミが投げ込まれる悪臭のする川だった。埋めて道路にする案もあったが、「せせらぎが流れる自然豊かな川」へ区民の賛同があり、現在のような親水公園になった。

景気の向上にともない、5つの親水公園、18の親水緑道、470の公園・児童遊園等の水と緑のネットワークが形成された。昭和45年には0.85m²/人だった公園は現在5.27m²/人に、2.6本/人だった樹木は9.3本/人となっている。

・公園の維持管理の特徴

公園樹木等の維持管理はプロパー形式で選ばれた区内の造園業者が担っている。日常的な清掃はシルバー人材センター約660人や、区民ボランティアの方をお願いしている。

・市民の関わり

公園ボランティアの登録者数は1,075人(平成13年)から4,048人になった。えどがわ桜守、まちかどボランティア、緑、水辺のボランティアをあわせると8,601人の登録がある。行政の

肩代わりをするボランティアではなく、魅力に磨きをかける部分を区民が担っている。

区内の親水公園、親水緑道には地元の町会・自治会をベースにした「愛する会」が設立されている。清掃活動、安全安心のパトロール、自然観察会等の活動をしてきている。

・景観づくりの取り組み

江戸川区も景観計画を策定し、景観法に基づく届出・協議による規制誘導をベースに、区民主体の活動による景観まちづくりを通じて、誇りの持てる景観づくりに取り組んでいる。

一之江境川親水公園は平成 18 年、景観地区の指定を受けた。3 年間の地域の方と勉強会を重ね、建物の高さ、色の制限を受けることを確認しながら進めた。空が見える水と緑の景観を大事にしようという約束の下、景観地区の指定を受けた。平成 23 年には古川親水公園沿線地区も指定を受けている。さらに景観まちづくりワークショップ、えどがわ百景事業、表彰制度（景観まちづくり賞）を実施している。



フォーラムの様子（午後）

●2. 舞浜地区の海岸事業概要（千葉県県土整備部河川整備課・副主査 松本忠久さん）



千葉県河川整備課 松本さん

昭和 40 年代の埋め立て造成時に浦安海岸は建設されたが、護岸の不等沈下が確認され、平成 14 年から高潮対策事業に着手している。県市

で調整し、管理用道路を用いたサイクリングロード（舞浜大橋から浦安市運動公園まで）、ビューポイント、休憩スペースを整備している。県では新たな整備に着手する海岸ごとに、「魅力ある海岸づくり会議」を招集し、地元意見を取り入れた事業に取り組んでいる。

●3. 浦安水辺の会の活動（浦安水辺の会・事務局長 横山清美さん）



浦安水辺の会 横山さん

活動のきっかけは、浦安の水辺を歩いてみたら立ち入り禁止の場所がとても多かったことにあつた。市民が安全に水辺に触れられれば水辺で遊べるようになるのではと活動している。屋形船でワークショップ、水辺をみる活動、市民が水辺を歩くためのセルフガイド、E ボート体験、ライフジャケットの着用安心安全講座、水辺の里海活動、里海を考えるシンポジウム、ミニカフェテラス in 境川の実践を重ねてきた。近年では、若い人たちの団体や目的を共有する団体との連携を考えている。大人も子どもも水辺で遊べる、人がいきいきする景観のために、多くの体験の機会をつくっている。

●4. ディスカッション

長谷川さんへの「江戸川区の親水公園には柵がないがどういう考え方か？」という質問に、「当時の区長の方針が強く転落防止策はできるだけつくらないようにしている」との回答があつたほか、多くのやりとりがありました。

横山さんの活動経緯にもありましたが、水辺の景観は安全性と親水性の二つの価値を両立させなければならない現代的な課題です。行政や市民、市民同士の協働で解いていかなければならない課題だということを教えていただいたように思います。

第3回

みどりの景観を考える

2014 年度浦安市協働事業
浦安景観まちづくり連続講座



■開催概要

【日時】9月21日（日曜日）10時～16時

【集合】弁天ふれあいの森公園グリーンハウス前（浦安市弁天 4-13） 10時

【場所】富岡公民館（浦安市富岡 3-1-7）

【費用】200円（資料等）

【内容】みどりの景観を考える

【対象】市内在住・在勤・在学・事業者の方、40人程度

【問合せ】うらやす景観まちづくりフォーラム（浅川）090-1764-9868

【申込】氏名・年齢・性別・住所・電話番号を記入のうえ、ファックス又はEメールで

【FAX】03-6228-3504

【Eメール】asakawa@comdesign.jp

【申込み期日】9月19日（金曜日）

■浦安景観まちづくり連続講座の第3回は、浦安市の公共空間及び公共空間的な緑である、近隣公園や街区公園、緑道や幹線道路の街路樹や植栽帯、大規模団地の緑などが作られた経緯や管理の状況を知り、市民が関われる活動は何か？また、望ましいみどりの景観は何かを考えます。

午前には浦安市緑化事業協同組合川口氏の案内で、弁天ふれあいの森公園から見明川、東野、弁天の住宅街を歩きます。午後は最初にみどりのネットワーク後藤氏に、住民参加で作られた弁天ふれあいの森の経緯と運営、みどりのネットワークの活動について話を聞き、その後、E & Gアカデミー講師犬塚氏に緑を育てる自然環境や都市環境など浦安の緑の視点について話を聞き、その後、皆さんとディスカッションします。

「浦安景観まちづくり講座」第3回 みどりの景観を考える 開催報告

浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働事業として、2014年度「浦安景観まちづくり講座」の第3回「みどりの景観を考える」（第3回）が、9月21日（日）午後、富岡公民館で開催されました。午前中には後藤講師による弁天ふれあいの森公園の趣旨説明の後、浦安市緑化事業協同組合毛利講師によるまちあるきも実施されました。晴天に恵まれ、総勢33名の方にご参加いただきました。どうもありがとうございました。以下、当日の様子をご紹介します。

■弁天ふれあいの森公園



公園の趣旨説明 後藤講師（午前）

まちあるきは、弁天ふれあいの森公園に集合し、毛利講師の案内で、見明川団地の塩害に強いキョウチクトウの生垣、見明川沿いのソメイヨシノ、段差道路中央分離帯の傘型のカイズカイクキを見て歩きました。



珍しい中央分離帯の傘型カイズカイクキ

その後、湾岸道路沿い緩衝緑地帯のマテバシイ、コンフォール浦安弁天のレッドロビン、浦安市

で唯一の景観協定地区の舞浜の杜でどのような協定があるか確認をしました。

■景観協定 舞浜の杜



まちあるきの様子 毛利講師（午前）

最後に手入れが行き届いていないため道路に大きくはみ出して、問題のある戸建てのカイズカイクキの説明を毛利講師から受けました。それによると、樹種変更による植え替えが望ましいが、生垣撤去によりなくなってしまう可能性も高いので、管理がしやすい樹種を選択し、市の生垣補助制度の利用を市民に促す必要があるとのことでした。

■フォーラム「みどりの景観を考える」

午後はフォーラムを開催しました。

●1. 「みどり」の協働事業の展開

（みどりのネットワーク代表・後藤隆講師）



みどりのネットワーク 後藤講師

・協働による公園づくり

弁天の森ふれあい公園は、2000年に市民や地域住民の意見を聞くためにアンケート調査をおこない1893通の回答があり基本構想ができた。2002年にワークショップをおこない、作りこみすぎない空間、みんなで作り続ける公園をコンセプトとした。2004年には、「ふれあ

いの森公園を育む会」を設立し、ゾーニング、樹木の選定、花壇のレイアウトを決めていった。会員数は、現在 341 人で、「花いっぱい」等 7 つのクラブで構成されている。災害時を考え、地域住民のために防災倉庫やかまどベンチが設置されている。

・みどりのネットワーク

みどりのネットワークは、浦安市との協働で、浦安市を「みどり豊か」で「うるおい」ある「ふるさと」にするための市民ネットワーク。現在、13 団体、4 個人、7 学校・幼稚園が参加している。

・生命と育ちの森プロジェクト

東日本大震災からの復興と未来の安全のために、「浦安絆の森(緑の防潮堤)」を市民・地域共に育成していく。

●2. 「浦安のみどりを考える視点」(E&G アカデミー・犬塚修司講師)



E&G アカデミー 犬塚講師

浦安市の埋立地の土は、外部から畑土が導入され植栽がおこなわれた。今後もコンポスト、チップ化など土壌再生の検討が必要とされている。また、塩害がある浦安市だが、海岸線のクロマツは塩害に強いが燃えやすい。ヤシ、オリーブ、ブラシノキは、リゾート的で塩害に強い樹種であるが子供達は浦安の木として育つ。

これからは、防火植栽が必要とされる。淡路阪神大震災では、防火樹の役割が大きく評価された。イチヨウは、防火樹である。タブノキなど常緑広葉樹の計画的な植栽や公共のみどりは緑陰、防災など生活を守る植栽をもっと推進して欲しい。「景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年」とあるが景観と風景をこれから造っていく。

●3. 「組合事業(堆肥化)について」

(浦安市緑化事業協同組合・毛利眞一講師)

2001 年から、みどり公園課の依頼で、浦安市

墓地公園内で樹木の剪定ごみを緑化・リサイクル事業の一環として堆肥化を始める。

当初はうまくいかなかったが、現在では、2 年、3 年と経過した剪定枝をリサイクル化することによって良い堆肥ができるようになった。

堆肥は、緑の防潮堤の土壌に使用している。



浦安市緑化事業協同組合 毛利講師

●4. ディスカッション

(司会進行・フォーラム浅川潔氏)

犬塚講師への「現状の生垣を活かたり、樹種を誘導できないか？」という質問に、「植えた木を活かすために造園技術を利用する。枝の先端にシュロ縄をつけ横に引っ張ると良い。また、生垣だけでなく、フェンス緑化を提案する。つる性のテイカカズラに落葉を何種類か混ぜると年間を通じて楽しめる。」

毛利講師、後藤講師への「雑草がひどいが良い対策はないか？」と質問に、「地域の人みんなで意識をかえてやっていくことが必要。」

今回は、景観の話だけでなく、みどりを育てるために必要な話も多く聞けました。良好なみどりを造ることにより、良い景観が生まれると思います。



犬塚講師、後藤講師、毛利講師による討論
次回の「住環境の景観を考える」(第 4 回)は、まちあるきとパネルディスカッションです。
多くの方のご参加をお待ちしております。

2014
景観
まちづくり
フォーラム

2014 景観まちづくりフォーラム in うらやす
浦安市協働事業 浦安景観まちづくり講座第4回

住環境の景観を考える

あなたの暮らしがまちの未来をつくる



11 月 30 日 (日)

まち歩き 10 時～12 時

パネルディスカッション

13 時 30 分～16 時 30 分

パネルディスカッション コーディネーター
北原理雄（千葉大学名誉教授）

【集合時間】 10 時（受付 9 時 30 分から）

【場所】 浦安市民プラザ WAVE101 大ホール
（浦安市入船 1-4-1 ショッピングプラザ新浦安
4 階）JR 京葉線新浦安駅南口徒歩 2 分

【費用】 無料

【定員】 100 名 景観まちづくりに関心のある方

主催：うらやす景観まちづくりフォーラム(UKMF)・浦安市 都市計画課
景観まちづくり千葉協議会・千葉県 公園緑地課

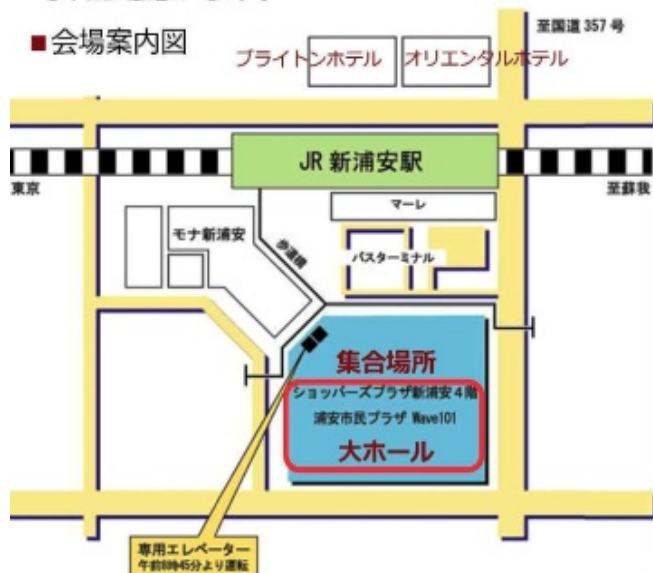
■「2014 景観まちづくりフォーラム in うらやす」は、「浦安景観まちづくり連続講座の第4回」を兼ねて、「住環境の景観を考える」をテーマに、まち歩きとパネルディスカッションをおこないます。

埋立てにより拡大発展してきた浦安市は、元町・中町・新町など年代やデザインの異なる多様な形式の戸建、低層・中高層の集合住宅などが存在し、また、住宅地内には豊かな緑が住民により育まれており、これらの良質なストックを継承していくことが必要です。

それには、地域ごとに必要となるルールづくり、住民主体の景観まちづくり、長時間かけて育まれてきた住宅地の緑を維持保全する、建替改修時など周辺環境と調和する、長期的な維持管理を図る、などが考えられます。

中町地区では、住民組織提案による地区計画の策定や、大規模集合住宅の大規模修繕時に、景観を意識した外観改修や植栽リニューアルなどがおこなわれています。

皆さんと一緒に浦安市の多様な住まいの景観づくりについて考え、活動へのきっかけになればと思います。



■プログラム

- 9 時 30 分 受付開始
- 10 時 まち歩き（美浜・入船・日の出の戸建住宅地・集合住宅地）
- 12 時 昼食（各自、周辺施設で）
- 13 時 30 分 パネルディスカッション開始
- 13 時 45 分 パネリストから各地区の報告
- 14 時 45 分 休憩
- 15 時 ディスカッション
- 16 時 30 分 終了

■パネルディスカッション

●コーディネーター

北原理雄（千葉大学名誉教授）

●パネリスト

佐久間康富（大阪市立大学講師・UKMF）

うらやす景観まちづくりフォーラムの活動

水溜 学（浦安市美浜 15 自治会会長）

住民発意による地区計画策定のプロセス

吉田豊孝（佐倉市染井野 S1 地区建築協定運営委員）

佐倉市染井野 S1 地区の街並み保全活動

辻 和夫（幕張ベイタウン協議会事務局）

高規格集合住宅地の街並みの管理運営活動

●コメンティター

浅川 潔（浦安市まちづくりアドバイザー・UKMF）
住環境の変化と今後の課題

■申込み

氏名・年齢・性別・住所・電話番号（所属団体）をご記入のうえ、ファックスまたは E メールで、下記までお送りください。

※午前又は午後だけの参加も可能です。

申込み期限 11 月 28 日

■申込み・問合せ

<景観まちづくり千葉協議会事務局団体> NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689 E-mail npo-club@par.odn.ne.jp

うらやす景観まちづくりフォーラム(UKMF)

TEL 090-1764-9868(浅川) FAX 03-6228-3504 E-mail asakawa@comdesign.jp

2014 景観まちづくりフォーラム in うらやす・浦安市協働事業「浦安景観まちづくり講座」(第4回) 「住環境を考える あなたの暮らしがまちの未来をつくる」開催報告

「2014 景観まちづくりフォーラム in うらやす」(景観まちづくり千葉協議会・千葉県公園緑地課)は、2014 年度「浦安景観まちづくり講座」の第4回をかねて「住環境を考える」(浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働事業)をテーマに11月30日(日)、午前中は市内まち歩き、午後は WAVE101 でパネルディスカッションが開催され、総勢 90 名の方にご参加いただいた。

■開会挨拶



松崎・浦安市長 高田・千葉県公園緑地課長

松崎秀樹・浦安市長より、高田玲子・千葉県公園緑地課長より、開会の挨拶があった。

■パネルディスカッション

●コーディネーター



千葉大学名誉教授・北原先生

景観は「目に見えるまちや風景の姿」といわれているが、目に見えるまちや風景には人々の営み、歴史、文化がある。目に見える風景は私たちの暮らしの状態が健康なのか、おかしくなっているのかも表れてくる。人の顔色をみて健康状態がわかるように、地域の健康状態があらわれるのが景観。景観を考えることは地域のあり方を総合的に考える一つの入り口である。

今日は景観を入り口にしてまちを総合的に考えていこうという取り組みで、これまで里山、里海、歴史的な町並みで10回近くやってきた。今回は住宅地の景観まちづくりを考えたい。魅

力的な取り組み事例を共有し、知恵の交換ができることを期待している。住宅地は経済活動をしているわけではない。住んでいる人の暮らしの一部として、金をかけずに少し汗をかいて住宅地のある地区を魅力的で豊かなものにして行くにはどうすればいいかを考えていきたい。

●事例報告1：うらやす景観まちづくりフォーラムの活動



うらやす景観まちづくりフォーラム・佐久間

私たちの団体は、市民の視点で景観まちづくりに関わりたいというのが大きなねらい。景観資源の発見、先進事例の見学、景観まちづくりの提言が活動内容で、特に震災後、浦安の景観が変わろうとする中で、景観の変化を観察し、景観資源をまとめている。今年度は浦安市の協働事業として啓発事業に取り組んでいる。

この背景の一つは、2009、2010年に市主催で景観資源リストをつくる活動をやったことにある。東日本大震災の復興で景観が変わりゆくときこそやるべきことがあると参加者の有志で発足した。また、第2期基本計画市民会議、市民大学により市内で市民活動の機運が高まったことも背景の一つであると思う。

●事例報告2：住民発意による地区計画策定のプロセス



水溜学・美浜15自治会会長

美浜 15 自治会は 1979 年に戸建て住宅からなる一つの団地として開発がはじまった。地区計画策定の発端は、2007 年、一部大きい区画が分割されて販売されたことにある。分割されたら街並みが壊れるのではないかと有志による運動が起こり、自治会がまちづくり委員会を組織した。その後度重なるアンケートを実施し、いずれの回も約 9 割が敷地分割に反対、まちづくりのルールに賛同いただいた。2009 年 8 月に地区計画素案を作成し、2010 年 3 月に要望書を市に提出した。その間、丁寧な説明を心がけた。委員会は誰でも参加できる開かれた場に、意向調査の質問要望には、質問・意見内容と合わせて回答をすべて住民に周知した。まちづくり委員会ニュースは全部で 25 号の発行になった。

地区計画が決定された要因は、住民の熱意、活動を自治体活動として位置づけたこと、計画内容をじっくり理解してもらえよう説明に時間をかけたこと、まちづくり委員会の取り組み、浦安市のアドバイザー・関係部署のご指導があったこと、にあると考えている。

●事例報告 3：佐倉市染井野 S1 地区の街並み保全活動



吉田豊孝・佐倉市染井野 S1
地区建築協定運営委員

染井野のある佐倉市は都心から約 40km、人口 17 万人のまちである。染井野は 1989 年から東急不動産（S2 地区・1500 区画）、1993 年から大林組（S1 地区 850 区画）が分譲を開始している。染井野は首都圏では珍しい大規模敷地の分譲で大変美しい町並みと景観を有している。大林組が建築協定を 1 人協定として締結し、1998 年に地区計画が策定されている。

その後、緑地協定の更新、新建築協定の締結をすることになった。建築協定更新のきっかけ

は違法建築に対して地区計画や佐倉市の条例では十分に対処できないこと、地区計画では今と同じような環境は守られないこと、行政任せではなくて住民自らの活動によりまちを守ろうとする活動をしようとしたことにある。アンケート調査、説明会を 22 回、総会を 3 回開催し、3 年かけて協定締結にこぎつけた。

地区計画に定めがないものとしてはアンテナの屋根への設置禁止、街区毎の建築様式については原則として和風街区では和風建築とするように配慮していただきたいとしている。屋根や外壁の色彩についてもマンセル値による具体的な数値を定めている。

S2 地区は S1 地区の 1 年後に建築協定を締結したが、検討の間に住宅地エリアの空き地にレンタル収納コンテナを設置するという情報があった。地区計画では設置を拒否できず、佐倉市としては建築確認申請が提出されれば認可せざるを得ないとのことだった。住民の声としては景観や防犯、安全の観点から反対が多く、S2 地区ではコンテナのような窓のない建築物を排除する指針を協定に反映させている。

染井野地区には 5 つの町内会組織、S1、S2 地区それぞれに建築協定委員会、緑地協定委員会が組織されているが、密接な連携を持っている。住まいの手引き書を建築・緑地協定両委員会で全住民に配布したり、庭木の病害虫管理や、樹木の剪定、刈り込み、施肥、屋根外壁の塗り替えや太陽光発電などお役立ちセミナーを開催したり、染井野のよさを知るためのウォーキングラリーを実施している。佐倉市役所と 2 ヶ月に 1 回ミーティングを行い、意見交換や行政の動向や課題の把握に努めている。

コンクールにも積極的に応募し、最近では 2012 年度に住宅生産振興財団による第 8 回住まいのまちなみ賞、2013 年度は佐倉市主催の桜の景観まちづくり賞（活動部門）を受賞した。地元の小学生による社会科で「美しいまちなみもあるが住んでいる人が優しい、親切」といわれた。子どもたちのこころのふるさととして残っていくためにはハードだけではなく、人とのつながり、ソフト面の充実も重要だ。

●事例報告4：高規格集合住宅地の街並みの管理運営活動



辻和夫・幕張ベイトウン協議会事務局

幕張ベイトウンは浦安より15年ぐらい後に出来た。「幕張新都心住宅地デザインガイドライン」に住宅地マスタープランがあり、幕張ベイトウンはこれを指針に事業者33社と企業庁が調整をおこなって出来た。沿道型建築で統一され、商店街は石畳で舗装され、ポラードなどが設置されている。

幕張ベイトウンの住民活動には3つの時期がある。第1期は住民同士で仲間をつくろうとした時期であり、フリーマーケットで出会いの場づくりを行ったベイトウンまつり、第1回ベイトウンフォーラムではまちができてからの5年を総括した。その結果、みどりの活動が始まった。第2期はまち育ての時期にあたり、第2回のベイトウンフォーラムではこれからの10年について話した。企業庁・まちのあり方研究会や、シンポジウム、ニュース発行という広報活動も実施した。第3期は活動体制の確立を目指した。景観、都市環境、都市機能の維持・向上を図ることで住民利益を増進させることを目的とし、76の地域団体によりベイトウン協議会を発足させた。

現在の活動は一般社団法人「まち育てサポート」を設立し、景観勉強会を中心にデザインガイドラインの継承を含む、まちのルール of 枠組みを検討している。ハイスペックな公共施設、インフラは税金でメンテナンスも出来ないだろうことは予想しており、幕張新都心住宅地区の管理・運営機構をつくりたいと考えている。

今後は、千葉市の「景観形成推進指定地区」への認定を考えている。合意形成のためにも、景観デザインガイドラインを知ってもらう活動を進め、デザインガイドラインの運営の仕組みを引き継ぎ、情報、協議の場をつくりたい。住

んでいる人々の関心、志の維持が大事である。

■意見交換

●課題：住環境の変化と今後の課題



うらやす景観まちづくりフォーラム・浅川

少子高齢化、ライフスタイルの変化といった社会的状況の変化に伴い、住宅地の環境は変わってきている。周辺と異なる建物への建て替え、敷地分割され敷地の細分化、建て替えに伴う駐車場の増加・緑の減少、不十分な生け垣の管理、空き地空き家のある住宅地の増加などの課題がある。集合住宅地も大規模な修繕に伴い緑の減少、住民の高齢化による植栽管理の困難などの課題がある。

浦安市でも2009年に景観計画をつくっており、住宅地は生垣が多い地域として位置づけられている。住民はルールを定めること、緑の維持管理ができることであり、行政だけでなく市民が出来ることを考えていく必要がある。

●質疑：会場からの質問と回答

休憩時間の間に会場から寄せられた質問に対してパネラーから回答があった。具体的には、よい景観とはなにか、建築協定・地区計画の違い、地区計画・建築協定と景観づくりの関係、高齢化社会と空き地空き家問題、景観形成推進指定地区認定の趣旨について回答があった。

特に、住民の合意形成について応答があった。反対意見の向き合い方については、よく分からないがゆえの反対で内容を十分説明していく中で反対意見がなくなることが大半であり、それでもある反対に対しては繰り返し丁寧に反対意見に回答した。最終的には反対を取り下げるわけではないが理解はしていただいたと考えている、との回答があった。また、景観・環境への危機意識を持つときはすでに壊れはじめており、泥縄的にルールをつくってももう遅く、危機が起こる場合にルール化が必要だが、多くの人は

危機が起きないと理解してくれないという課題に対して、やはりアパート建設、敷地分割、コンテナ計画などの事例がないと活動が始まらないのでは、小さな火種を大きくしないようなゆるやかな計画が必要では、まちあるきなどを通して地道に伝えていくしかないのではとの回答が出された。

最後に、コーディネーターの北原先生より、日本ではまだ自分の家は自分の勝手だとの意識が強い。欧米の常識とは異なるのはもちろんだが、日本にも昔から作法という文化がある。人様とつきあうときにはそれなりの作法があり、それが景観を支えているのではないか。これからまちが成熟していく中で高齢化した住み手の支援、若い人たちの住み替えをふくめた景観まちづくりが必要。経済原則でまわっているわけではない住宅地は暮らしをどう豊かにしていくのか、人と人とのコミュニケーションをベースにして仕組みを作っていくことが大切だと改めて感じたとの総括があった。

■活動団体認定書授与・閉会挨拶



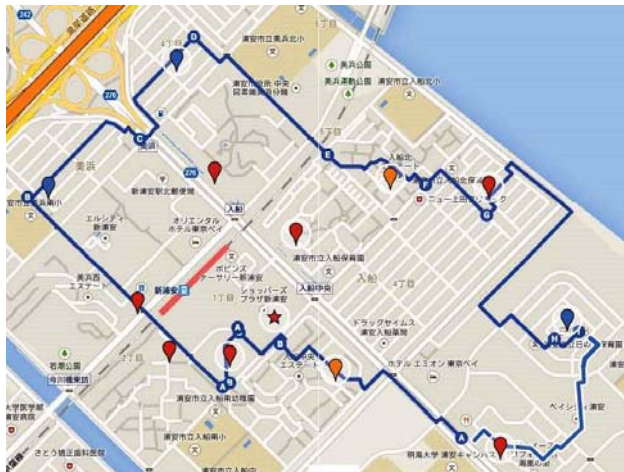
左) 認定書授与 右) フォーラム・小林

最後に千葉県の条例に基づき、うらやす景観まちづくりフォーラムに対して、景観づくり地域活動団体の認定書の授与があった。

フォーラム・小林より、これまでは建築基準法・都市計画法のように行為を制限してまちをつくってきたが、景観法は育てていく、よりよいものにしていくという点で異なる。協働事業で啓発活動に取り組んでいるが、景観法のもとどうやっていったらいいのか、われわれ自身も学び、啓発しながら活動している。県から認定をいただきうれしいという以上に責任を感じている。今日ご参加のみなさん含めて多くの方と一緒に取り組むことの最初だと思う。われわれ自身も含めてお互いに中身を確認しながらよいものにしていくことに一緒にいただければ大変うれしい、と閉会挨拶とお礼があった。

■まち歩き

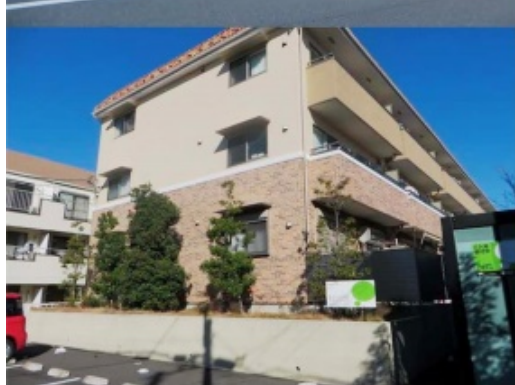
午前中は新浦安駅周辺の戸建住宅（美浜 3 丁目・4 丁目、碧浜）低層集合住宅（入船北、入船中央）、高層（入船西、美浜西、海風の街）から超高層集合住宅（エアレジデント）などを 4 グループに分かれてまち歩きをしました。



第5回

建築時の景観への配慮

2014 年度浦安市協働事業
浦安景観まちづくり連続講座



■開催概要

【日時】 1月18日（日）10時～16時

【集合】 まち歩き 10時、講座 13時

【場所】 美浜公民館（浦安市美浜 5-13-1）

【費用】 200円（資料等）

【内容】 建築時の景観への配慮

【対象】 市内在住・在勤・在学・事業者の方、
40人程度

【問合せ】 うらやす景観まちづくりフォーラム（浅川）090-1764-9868

【申込】 氏名・年齢・性別・住所・電話番号
を記入のうえ、ファックス又はEメールで

【FAX】 03-6228-3504

【Eメール】 asakawa@comdesign.jp

【申込み期日】 1月16日（金）

※内容が一部変更になる場合があります。

※荒天の場合、まち歩きは中止し午後から開催

■浦安景観まちづくり連続講座の第5回は、景観に配慮した建築物や工作物、敷地利用、色彩計画、屋外広告物について学びます。午前には戸建と共同住宅が混在する海楽地区、北栄三丁目、猫実二丁目、住宅と工場が混在する北栄四丁目地区、沿道商業施設が多いやなぎ通りなどを歩きます。午後は最初に、E&G アカデミー講師カラーコンサルタント福島圭子さんから「街並みと色彩」について話を聞き、その後、うらやす景観まちづくりフォーラムより「景観に配慮した建築・エクステリア」、都市計画課から「具体的な景観条例の内容」について紹介します。

「浦安景観まちづくり講座」第5回 建築時の景観への配慮 開催報告

2014 年度「浦安景観まちづくり連続講座」の第5回「建築時の景観への配慮」が、1 月 18 日（日）午後、美浜公民館で開催されました。午前中はうらやす景観まちづくりフォーラムによるまちあるきも実施されました。比較的穏やかな天気の中、17 名の方にご参加いただき、ありがとうございました。当日の様子をご紹介します。

■海楽・北栄・猫実のまちあるき

午前中はうらやす景観まちづくりフォーラムの大和稔さんの案内で海楽、北栄、猫実の既成市街地を歩きました。美浜公民館に集合し、最初は平成 21 年地区計画が設けられた美浜 16 自治会地区の赤煉瓦の土留めの整った低層戸建て地区を通り、その後、ほぼ同じ時期に開発され、昭和 63 年に共同住宅を制限する地区計画を設けた海楽パークシティを歩きました。海楽公園では「四季の花クラブ」による花壇の美化活動が行われています。



まち歩きの様子（海楽パークシティ）

修景されていない猫実川を渡るとかつては工場が多く、現在ではマンションが多い北栄 4 丁目に入りました。一筋おきに道路と用水路を簡易舗装した歩道状空地による道路パターンとなっていて、歩道空間の修景ができると潤いある景観となりそうです。今回は浦安市が景観条例に基づき事前協議を行なった建物も、いくつか確認しました。ここでは外壁の色彩と外構仕様のいったい感のある 11 戸の戸建分譲を確認しました。

その後、柳の街路樹が少ない柳通りで、マンションの設備機器を植栽で困った事案、赤地の看板のエンジの看板外壁が、ルーバーにより正面でないと見えない洒落た建物を確認しました。



まち歩きの様子（洒落た看板建築）

海楽 1 丁目は、ミニ戸建と戸建、共同住宅が混在する地区で、様々なデザインの共同住宅を確認しました。全体に景観協議されたものは、色彩やごみ置場、設備機器などの配置や見え方に配慮されていますが、道路沿いの緑が少なく潤いを感じる景観になっていない気がします。

■建設時の景観への配慮

午後は、建築時に景観への配慮についての講義を行いました。

●まちなみと色彩

最初にカラーコンサルタントの福島圭子さんより、まちなみと色彩について事例を紹介していただきながらご講演いただきました。



最初に色の基礎知識 カラーコンサルタント福島さん

識の話を事例の写真を見せながら説明していただきました。

色の三属性：色相・明度・彩度

□色相：色味の性質のこと

□明度：色の明るさの度合いのこと

□彩度：色味の強弱の度合いのこと

□無彩色：色味を持たない色～白・黒・グレー

□有彩色：色味を持つ色～赤・黄・緑・青など
明るい色は、軽く見える、柔らかく見える、膨張して見える。暗い色は、重く見える、硬く見える、収縮して見える。

明るい色と暗い色をミックスするとコントラストが強くなり個性が強くなり、白と黒ではモダンに見えますが、倉敷のような古い町並みでも使われています。

彩度が高い色は派手に見えますが、彩度の低い色は地味に見え、シックで伝統を感じます。



まち歩きした地区の写真を取り上げて、街並みの調和について話をしていただき、最後に、浦安市の色彩基準の考え方について景観計画の色彩基準の資料を使って話をしていただきました。

浦安の色相はオレンジ系と黄色系で半分くらい、無彩色が4割くらいと他の町と同じような分布となっています。オレンジだけ彩度が少し強くて調和できるので、そのような基準となっています。

無彩色とオレンジ系の色彩はあきが来ない色です。ちょっと生々しい色の時にはグレーを入れて濁らせると、なじみやすい色となります。

色を揃えるのが必ずしも色のコーディネートとは言えない、青は空や海の色、緑は植物の色と、自然の色なので、人工的なものにはアクセントで使い、ベースには使わない方がよいです。

色は景観で非常に訴える力が強いが、ちょっとした工夫や見方で違って見えるようになります。

浦安らしい色、浦安に似合う色は何か？という質問に対して、浦安は開放感のある雰囲気のように、明るい色、白っぽい色を使い、鮮やかな色を使うことで、リゾート感が演出できます。

欧米から帰るとゴミゴミして汚い印象を得るが？日本も欧州も古い街並みが残る地区は、貧乏な時代で素材も限定されていたため、色を多く使うことができなく、美しく、また、欧米は色のルールができています。

欧州は、ドアの色を変える時に周辺住民の同意を得るが、日本で色を調和させている場所はあるか？欧州は住宅の外側を周辺に合わせて、中は個性あるインテリア、日本は家の中を同じようなインテリアにするが、外側は個性を出そ

うとしています。衣服の文化の違いにあるのではないのでしょうか。また、日本人の街並み色彩意識が低いのではないか。

色だけではなく素材が大事で自然素材の色と人工物の色は同じ色でも違う。人工的な物は光沢があるので強く感じるので、素材を見せたい時には色を抑えていると素材が引き立ちます

●景観形成基準主な事項

休憩後、うらやす景観まちづくりフォーラムの浅川さんから、浦安市景観条例の景観形成基準の主な事項について参考写真を使って説明をしていただきました。最初に街並みの構成要素の分類について、その後、敷地利用の緑化・修景・水辺・色彩等、建築物の工作物の形態意匠のデザイン・色彩・素材・修景・屋外広告などについて、参考写真を見せながらの説明がありました。

●景観形成基準主な事項

最後に都市計画課

の谷川さんから市が景観条例を基に事前協議を行なった事例を紹介していただきました。景観条例における建築行為等は、地区や規模により違いはあるが、事前協議、



都市計画課 谷川さん

届出、自主確認で規制誘導されています。また工事完了時には現場写真、色彩、配置のチェックを行い検査済証が交付されます。その後、戸建て住宅開発、店舗の色彩変更、大規模建築の事前協議の事例を紹介していただきました。最後に参加者から質問やご意見をいただきました。

参加者から景観条例があっても道路沿いの立体的な緑が少なく、花木が少ない、景観協議しても緑が少なく、バックヤードや設備、外観などあまり良い景観になっていない、電線の地中化など、辛口のご意見をいただきました。

第6回

景観まちづくりを考える

2014 年度浦安市協働事業
浦安景観まちづくり連続講座

第1回 (5/18)



第2回 (7/20)



第3回 (9/21)



第4回 (11/30)



■開催概要

【日時】 3月15日（日）13時～16時

【集合】 13時

【場所】 浦安市民プラザ WAVE101 大ホール

【費用】 200円（資料等）

【内容】 景観まちづくり連続講座のまとめとこれからについて意見交換する

【対象】 市内在住・在勤・在学・事業者の方、40人程度

【問合せ】 うらやす景観まちづくりフォーラム（浅川）090-1764-9868

【申込】 氏名・年齢・性別・住所・電話番号を記入のうえ、ファックス又はEメールで

【FAX】 03-6228-3504

【Eメール】 asakawa@comdesign.jp

【申込み期日】 3月13日（金）

※内容が一部変更になる場合があります。

■浦安景観まちづくり連続講座の第6回は、これまでの連続講座まとめとして各回を振り返り、次年度、それ以降のこれからの景観まちづくりのあり方について、意見交換をします。

また、連続講座と平行して、東京大学大学院工学研究科 地域デザイン研究室のみなさんにより今年度実施された浦安調査について報告をいただくとともに、窪田亜矢東京大学特任教授（浦安市景観審議会会長）より、当日の議論についてコメントをいただきます。参加者のみなさんとの対話によって、今年度を振り返り、次年度を展望する場としたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしております。

「浦安景観まちづくり講座」第6回 景観まちづくりを考える 開催報告

浦安市都市計画課・うらやす景観まちづくりフォーラムの協働事業として、2014年度「浦安景観まちづくり講座」の第6回「景観まちづくりを考える」が、3月15日（日）午後、WAVE101 大ホールで開催され、総勢28名の方にご参加いただきました。

■開会挨拶（都市計画課・板橋課長）



都市計画課・板橋課長

板橋課長から、2014、2015年度の協働事業実施は決まっているが、2016年度以降は独自に市民への啓発を進めていただく必要がある。今後を見据えた活動について意見をいただきたい、との開会挨拶がありました。

■今年度景観講座の振り返り（フォーラム・浅川、佐久間）



うらやす景観まちづくりフォーラム・浅川

浅川から今年度実施された景観まちづくり講座の各回の内容について、佐久間から開催した5回のアンケート結果報告がありました。

・開催した5回のアンケート結果

参加者は中町、新町の人が多く、5段階で5ないしは4の満足度でおおむね満足を得られたといえ、水辺の景観（第2回）のポイントが高かった。各回の自由回答では、まちあるきをしてはじめて知った場所がある、住宅地を次世代へ引き継いでいくこと課題、市民が出来ることには課題がある、等の内容が紹介された。

■「地域資源を生かして住み継いでいくまち・元町」（東京大学大学院工学研究科・地域デザイン研究室・李美沙さん、都市デザイン研究室・森川千裕さん）

次に、東京大学大学院・都市・地域デザイン研究科の元町での調査報告がありました。



東京大学大学院・李さん、森川さん

・元町の課題と資源

かつての漁村が住宅中心のまちに変わりつつある。安全性と景観を両立させ、空き地や以前の地域資源を活用する提案をしたい。みなさんとの意見交換でよりよくしていきたい。

・元町の構造・路地の使われ方

かつては境川が生活、生産の中心で路地も境川に向かっていった。境川を囲むように商店街があり、人々は回遊して買い物をしていた。現在は境川の中心性が薄れ、商店も減少している。路地の使われ方調査によって、貝殻舗装の路地、離れのある分棟形式が継承されていること、街区の内側に空地があることがわかった。

・空地を利用した提案

街区の構造は、内側の私的領域と外側に面した共有領域に分けられる。内側は住民が管理し、住んでいる高齢者の震災時の一時避難場所になるとよい。空き地をつなぎ耐火耐震性を高めることで防災に強い街区ができる。外側は元々回遊性が高く、高齢者や外から来る若者が滞在できる。昼間、若い男の人がいると地区の防災性が高まるという報告もある。人々の行動、利用も考えた景観のあり方が重要ではないか。



会場の様子（休憩時）

■意見交換(前半:これまでの景観講座の感想)
休憩を挟んで、3班に分かれた意見交換となりました。前半ではこれまでの景観講座の感想が話し合われ、以下のような意見がでました。

- ・27年間住んでいたがまちあるきで新発見があった。
- ・震災以降まちが荒れるのがつらい。
- ・中町は高齢化、生垣が塀になる問題がある。
- ・海、境川、三番瀬などの親水性は、人に使われる空間づくりが必要。
- ・フォーラムの活動が充実している。6回も多様なテーマが続いたのは素晴らしい。一方で、市の施策とのつながりが感じられない。

■意見交換(後半:次年度の景観講座への提案)
後半の冒頭、フォーラム・浅川より、次年度の企画案(より良い景観資源探し:景観資源リストの改訂、改善したい景観探し:景観阻害要素のチェック)が紹介され、企画への意見・提案が話し合われました。



会場の様子(意見交換時)

- ・景観資源としては公共空間が重要。建物の外観、公共空間への対策を考えるべき。
- ・景観資源リストを認定するような形が大事。応募登録制度ができればよいのでは。
- ・景観まちづくりに取り組みたい地区の方々のお手伝いを考えたらよいのではないか。
- ・水辺の活性化、公共空間のオープンカフェなどがあるとよいのではないか。
- ・市民と行政が協働で運営できるまちづくりセンターがあるとよい。
- ・昼間だけではなく、夜間景観、照明も重要ではないか。色に焦点を絞った景観探しもよい。

■総括コメント(東京大学大学院工学研究科・地域デザイン研究室・特任教授・窪田亜矢さん)



地域デザイン研究室・窪田亜矢さん

次年度は市民側の実践に向かっていると感じた。景観づくりの実践者にお話を聞くような、人をつないでいく観点が大事ではないか。元町は防災と景観の両方がよくなると結果としてよい景観にならない。路地は暮らしやすさの根底だが、防災的には危ない。景観まちづくりも結果としてめざすまちと景観を手段として使う戦略的な部分を意図的に振り分けながらやっていくのがよいのではないか。私見ではあるが、浦安は非常に恵まれている。人口減少の縮退化、高齢化、液状化、いずれも大変ではあるが差し迫っていない。たとえば、自然と共生した新しい埋め立て地・新町をつくる、震災の記憶を風景の中で継承するといった、他の自治体でできない先進的なことに取り組んでいただきたい。次年度の実践から可能性を見せていただけるとありがたい。

■閉会挨拶(フォーラム・小林)



うらやす景観まちづくりフォーラム・小林

最後にフォーラム・小林より、手探りの中で1年間やってきたが、多くの方に参加いただいて、予想よりも大きな成果が出た。参加していただいたみなさんに対して厚くお礼申し上げる、と閉会の挨拶がありました。

次年度も多くのご参加をお待ちしています。

2014 年度浦安市協働事業 浦安景観まちづくり講座

うらやす こどもまち探検隊

境川沿いの元町を歩いて、昔の浦安を探してみよう！

8月7日（木曜日）
9時～12時半

わたしに会えるかも

申込締切 8月5日

【場所】浦安市郷土博物館 9時集合

【参加費】無 料

【内容】元町のまち歩きとまとめ

【対象】市内に在学・在住小学校

4年生～6年生

【募集人数】（先着20人）

【申込み・問合せ】うらやす景観ま
ちづくりフォーラム

うらやす景観まちづくりフォーラム
浦安市都市計画課 浦安市郷土博物館

「こども向け景観講座：まち歩き」プログラム

うらやす こどもまち探検隊

景観まちづくりは、プロセスに時間のかかるものであり、まちづくりを担う次世代と交流し、想いを伝えることは不可欠です。自分たちが住み、生活しているまちを感性の柔らかな時期に学習し、体感することは、長い将来にわたってのまちづくりに役立って行くものと考えます。子どもたちにとっても、自分たちが生き、暮らしている広がりを感じ、親や祖父母などの先人たちが築き上げてきた実際（町）の歴史を知ることが、とても大切なことと考えています。

■開催概要

【月 日】8月7日(木曜日) 9時～12時半

【場 所】浦安市郷土博物館 9時集合

【参加費】無料

【内 容】元町のまち歩きとワークショップ（まとめ）

【対 象】市内の在学・在住小学校4年生～6年生、20人先着

【持ち物】帽子、動きやすい服装、飲み物（多めに）、おやつ（少量）
デジタルカメラ（お持ちでない方にはこちらで用意）、
筆記用具、メモ（ノート、スケッチブックなど）、
雨具（天候急変時に備え）

※小雨決行、大雨・荒天の場合は中止（中止の場合、朝7時半に連絡）

■スケジュール

9時00分	集合：浦安市郷土博物館
9時10分	郷土博物館屋外展示場を見学し、浦安の歴史を知る。
9時30分	まち歩き 境川を中心にした周辺の猫実と堀江のまちを探索し、気になる場所やおもしろい場所、良いところ、良くないところなど、写真を撮りながら記録する。 途中、旧宇田川家住宅と旧大塚家住宅で、住宅の歴史を教えてもらい休憩する。
11時30分	ワークショップ（※参照） まち歩きの写真や気がついたメモを大きな地図に書き込み、感想の発表をおこなう。 各グループの地図をつなぎ合わせ、おおきな地図にする。
12時30分	解 散

※ワークショップとは

参加者が自ら参加体験する双方向的な学びと創造のスタイル



■申込み・問合せ

【申 込】氏名・学年・性別・住所・電話番号を
ご記入のうえ、ファックスまたはEメールで
【FAX】03-6228-3504
【Eメール】asakawa@comdesign.jp
【問合せ】うらやす景観まちづくりフォーラム（浅川）
090-1764-9868

「うらやす こどもまち探検隊」を8月7日(木曜日)に、小学4年生8名2年生1名、26年生2名の11名の参加で開催されました。

今回、こども達が境川沿いの元町を歩いて昔の浦安から、残したいものや、おもしろいものを探しました。



出発前の集合写真

■まち探検に出発！

9時に郷土博物館に集合し、最初に小林代表が今日の目的やまち歩きのルールなどを伝え、2グループに分かれて自己紹介、カメラ担当2名を決めて、まち探検に向かいました。

Aグループは、小学4年生男子5名と小学2年生女子1名の6名のグループで、ロケーションの野道さん、八田、浅川の3名が引率、保護者の方1名も一緒に歩きました。

Bグループは、小学4年生女子2名、男子1名、小学6年生2名の5名のグループで、小林、大和、浜野が引率しました。

コースは、2グループとも郷土博物館～しおかぜ緑道入口～左右天命弁財天～境橋～東学寺～フラワー通り～駄菓子屋～大塚家住宅・宇田川家住宅～新橋～中央公民館前からバスに乗車～郷土博物館でした。天気は晴れていましたが、照り返しが強くなく、川沿いで風もあったので比較的歩きやすかったです。



まち探検の様子・木陰はありがたい！

■Aグループの行程

Aグループは郷土博物館から境川沿いを北に進み、あけぼの橋を渡りながら東水門やべか船を見て川の西側に、しおかぜ緑道の入口にくと、水は流れていませんでしたが三角形のオブジェに上がり、子供達は少し遊んでみたいようす。境川沿いをさら北に進み、木手摺の神明橋を渡り川の東側に戻り、左右天命弁財天のサインがあるテラスで少し休憩、木陰で涼んで木のありがたさを感じていました。

路地を入り弁財天に、ここに来て写真を急に取り出しました。池の中の亀やコイまで人の氏名が書き込んであるのが面白いみたいです。ここで、先に出たBグループと一緒に、一足先に豊受神社に、溶岩が積み上げられた富士講、天狗、などここに来てまた境内のいろんなものを撮りだしました。こども達にとっては、境内は普段見ない変わった物がある公園のように感じているみたいです。そういえば昔は神社や寺の境内でこども達が遊んだのと同じですね。

ここで思わぬ時間を経過してしまい、少し急いで境橋に。昔の境川の写真を見ながら橋からスカイツリーを見て東学寺に。ここでも建物のディテールに興味があるみたいでした。銭湯の説明はしてもあまり興味を示さず、駄菓子屋に。私も駄菓子屋の中に入ったのは初めてですが、種類の多さにびっくりしました。こども達には50円以内なら買ってあげることにしました。



まち探検の様子・宇田川家を訪問！

外の一昔前のゲーム機にも興味を示していましたが、時間がないので次の宇田川家住宅に。その途中のフラワー通りの側溝蓋に書かれていた小学生の絵の写真もたくさん撮っていました。宇田川家住宅の前に銭湯の横の路地を入り銭湯の木材を燃やしているかまを拝見。宇田川家住宅で、ちょっと休憩して、係の方に1階を案内してもらいました。人形のリアルさにびっくり。お散歩バスの時間があるので、清瀧神社の前を

通り新橋を渡って中央公民館に。お散歩バスは意外と混んでいましたが、こども達は小さいので、乗ることができました。

郷土博物館には1本前のバスでもどっていたBグループが休んでいました。両グループのデジカメのSDカードを回収して、早々にプリントアウト。時間がかかるので、名刺サイズで8枚一緒に印刷し、カッターで切る作業。一つのSDカードはコンビニに行ってプリントアウトしましたが、プリントアウトに時間がかかりそのおかげで、最後のまとめの時間が少なくなりました。



まち探検のまとめと集合写真

まとめ作業は、最初に各グループが歩いたコースをおおきな地図に書き込みました。その後で、名刺サイズの写真から良いなと感じたものと面白い、変わっていると感じた写真を選んで、地図に貼りました。少し疲れたのか、最後はまとまりがなく、コメントを書くことまでできずに時間が来てしまいました。

最後は大きな地図を前にグループごとに、各自の感想を話してもらい終了しました。以下その時のこども達の感想です。

- ・ 新明橋の手すりが木でできていた。
- ・ 境川沿いの木陰のあるテラスで休憩した時に、風が気持ちよかった。
- ・ 東学寺の鬼瓦の顔が笑っているように見えて怖くなかった。
- ・ 豊受神社に天狗がいて顔が怖かった。
- ・ 左右天命弁財天でカメとかコイがいた。
- ・ 木の家が多く、弁財天の池の水が火事のために使われている。
- ・ しおかぜ緑道の三角形のタイルが上ると滑りやすく危ない。
- ・ フラワー通りで私が3年生の時にかけた絵を、みんなで見ることでよかったです。
- ・ 大塚家の人形の小指がとれていて気持ち悪かった。
- ・ 大塚家のような住宅はトイレが汚くて、セキュリティがないので、住みたくない。

■追加こども講座：8月20日水曜日 14時～15時30分 高洲公民館第2集会室

各自の感想は一言聞けましたが、写真のコメントがないので、もう一度集まれるこども達だけ集まってもらい、写真のコメントと感想を聞くために追加講座を開催しました。

参加してくれたこどもは、小学4年生男子2名、女子2名、小学6年生1名でしたが、参加できなかった小学4年生3名は書面でコメントをもらいました。

この日は最初にまち歩きを思い出すために、歩いたコースを確認し、その後でこども達が撮った写真をプロジェクターで見せました。そして、追加の写真も地図に貼り、良いなと感じる写真を選んで、なぜその写真を選んだのかコメントをメモしました。

人気が高かったのは駄菓子屋です。他の地区には町中に駄菓子屋がなく、こども達がまちなかで唯一親しめる場所だからと思います。

こども達が撮った写真は引いて撮る写真が少なく、ドアップの写真が多かったです。やはり、細かなものの興味があるみたいで、狛犬や鬼瓦、橋の木の手摺、神社の扉の模様、亀やコイ、虫などの生き物、に興味があるようです。



まち探検の様子

今回の参加者の中には、説明を聞いて、図をいれてメモする子や、事前に詳しく調べている子がいて、大人達を感心させました。

次回は、浦安の海浜の風景を見てみたいという希望がありました。

■うらやす景観通信発行リスト

掲載月日	名 称	メインテーマ	サブテーマ	イベント 案内
H26.4.9	第 21 回うらやす景観 通信 pdf 591kb	景観における協働つ て何するの	「景観資源リスト ネットワ ーク G」の紹介	浦安景観まちづくり 連続講座第 1 回案 内
H26.7.28	第 23 回うらやす景観 通信pdf571kb	景観計画ができるま で	先進事例視察 「江戸川区親水公園」	「浦安景観まちづく り連続講座」案内
H26.5.15	第 22 回うらやす景観 通信 pdf 661kb	色について考えよ う、先進事例視察紹 介	「浦安景観まちづくり講座 第 1 回キックオフミーティ ング」開催報告	第3回「みどりの景 観を考える」案内
H26.8.28	第 24 回うらやす景観 通信pdf514kb	教えて景観協定	「第2回水辺の景観を考え る」講座の下見のまち歩き	
H26.10.2	第 25 回うらやす景観 通信 pdf872kb	開発と景観は関係 ないの？	水辺の景観を考える(第2 回)開催報告	第4回「住環境の景 観を考える」案内
H27.1.16	第 26 回うらやす景観 通信 pdf734kb	景観と地区計画は 関係内の？	「うらやす こどもまち探検 隊」開催報告	第5回「建築時の景 観への配慮」案内
H27.3.25	第 27 回うらやす景観 通信 pdf7247kb	景観資源リストとは	みどりの景観を考える(第 3 回)開催報告	

第 27 回 うらやす景観通信 平成 27 年 3 月 25 日発行 清安市役所都市整備部都市計画課 TEL 047-351-1111 (内線 1954-1957) FAX 047-353-4378 メール toshikei@city.urayasu.jp
--

3 月に入り、気温もだいぶ暖かくなり、だんだんと春が近づいてくるように感じられるようになってきましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

この時期は花粉の飛散量も多く、アレルギーの強い方には最も辛い時期ともいえるかもしれません。今は日本人の 4 人に 1 人が花粉症に悩まされている時代です。症状がまだ出ていない方もくれぐれもお気をください。

さて、今回の景観通信のテーマは「景観資源リストとは」です。

浦安の景観を再発見し、その魅力を伝え守り育てていくため、平成 21・22 年度の 2 年間、都市政策課の主催にてワークショップ「景観資源リストづくり」が開催されました。



ワークショップ風景

まず、1 年目の 21 年度には、元町・中町・新町のまち歩きを行い、好きな景観や守りたい景観、改善したい景観などを集めました。次の 22 年度には集めた景観資源について、歴史・みどり・ネットワークという 3 つの観点から、それぞれの班

に分かれ、その背景や文化、魅力を調べるなど「景観資源リスト」の完成に向けて取り組みを進めてきました。



景観資源リストのまとめ作業

平成 22 年度末の 3 月にはそのまとめとして、うらやす市民大学の「うらやすの街づくりを考える」講座との合同にて、発表会も開催する予定で準備を進めていました。会自体は東日本大震災により開催が叶いませんでしたが、同年 12 月に改めて企画を企画し、60 人を超える多くの方にご参加いただきました。

当日の発表もされた「景観資源リストづくり」に参加された有志の方々が、震災後の状況を思いやり、次ページの記事の執筆をお願いしている市民活動団体「うらやす景観まちづくりフォーラム」です。現在は都市計画課と協働事業を行うなど、市民の立場からの景観まちづくり活動にご協力されています。

今回の景観通信は「景観資源リストをみてみよう」というテーマでお送りします。

域住民のために防災倉庫やかまどベンチが設置されている。

・みどりのネットワーク
みどりのネットワークは、浦安市との協働で、浦安市を「みどり豊か」で「うるおい」ある「ふるさと」にするための市民ネットワーク。現在、13 団体、4 個人、7 学校・幼稚園が参加している。

・生命と育ちの森プロジェクト
東日本大震災からの復興と未来の安全のために、「浦安の森（緑の防潮堤）」を市民・地域共に育成している。

●2、「浦安のみどりを考える視点」(E&G アカデミー・大塚講師)



E&G アカデミー 大塚講師

浦安市の埋立地の土は、外部から粘土が導入され植栽がおこなわれた。今後はコンポスト、チップ化など土壌再生の検討が必要とされている。また、塩害がある浦安市だが、海岸線のクロマツは塩害に強いとされている。ヤシ、オリーブ、ブラシノキは、リゾート的で塩害に強い樹種であるが子供達は浦安の木として育つ。

これからは、防火植栽が必要とされる。阪神淡路大震災では、防火樹の役割が大きく評価された。イチヨウは、防火樹である。タブノキなど常緑広葉樹の計画的な植栽や公共のみどりは緑陰、防災など生活を守る植栽をもっと推進して欲しい。「景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年」とあるが景観と風景をこれから進めていく。

●3、「組合事業（緑化）について」

(浦安市緑化事業協同組合・毛利講師)
2001 年から、みどり公園の依拠で、浦安市高地公園内で樹木の剪定ごみを緑化・リサイクル事業の一環として堆肥化を始める。

当初はうまくいかなかったが、現在では、2 年、3 年と経過した剪定枝をリサイクル化することによって良い堆肥ができるようになった。

堆肥は、緑の防潮堤の土壌に使用している。



浦安市緑化事業協同組合 毛利講師

●4、ディスカッション
(組合進行・フォーラム浅川氏)

大塚講師への「現状の生育を考えたとき、樹種を誘導できないか？」という質問には、「植えた木を活かすために遮光技術を利用する。枝の先端にシュロ縄をつけ根に引っ張ると良い。また、生垣だけでなく、フェンス緑化を提案する。つる性のテイカカズラに落葉を何種類か混ぜると年間を通じて楽しめる」との回答がありました。

毛利講師、後藤講師への「雑草がひどい良い対策はないか？」と質問に、「地域のみんなで意識を上げてやっていくことが必要」との回答がありました。

今回は、景観の植栽だけでなく、みどりを育てるために必要な話も多く聞きました。良好なみどりを造ることで、良い景観が生まれると思います。



大塚講師、後藤講師、毛利講師による討論

ホームページ制作・更新 「うら景まち広場」

浦安市協働提案事業・浦安景観まちづくり啓発事業により、市民に対して景観まちづくりの取り組みを蓄積、発信、共有することを目的に制作した。

■サイトマップ

TOP

浦安景観まちづくり啓発事業

運営団体

お問い合わせ

利用規約

免責事項

プライバシー

景観まちづくり講座

2014 景観まちづくり連続講座

浦安景観まち歩き

うらやす景観資源

視点場

史跡

道路

公園

うらやす景観通信

景観まちづくり情報

景観まちづくり情報

浦安イベント情報

行政の取り組み/計画

浦安市

千葉県

景観まちづくりサポート

参考図書

景観まちづくり参考図書

景観まちづくりお勧めサイト

活動団体（現在準備中）

地区の紹介（現在準備中）



■総アクセス数 2014年8月1日～2015年3月31日

	総アクセス数	ページアクセス	アクセス人数
総 数	38,569	3,982	2,315
一日平均	160	16.6	9.6

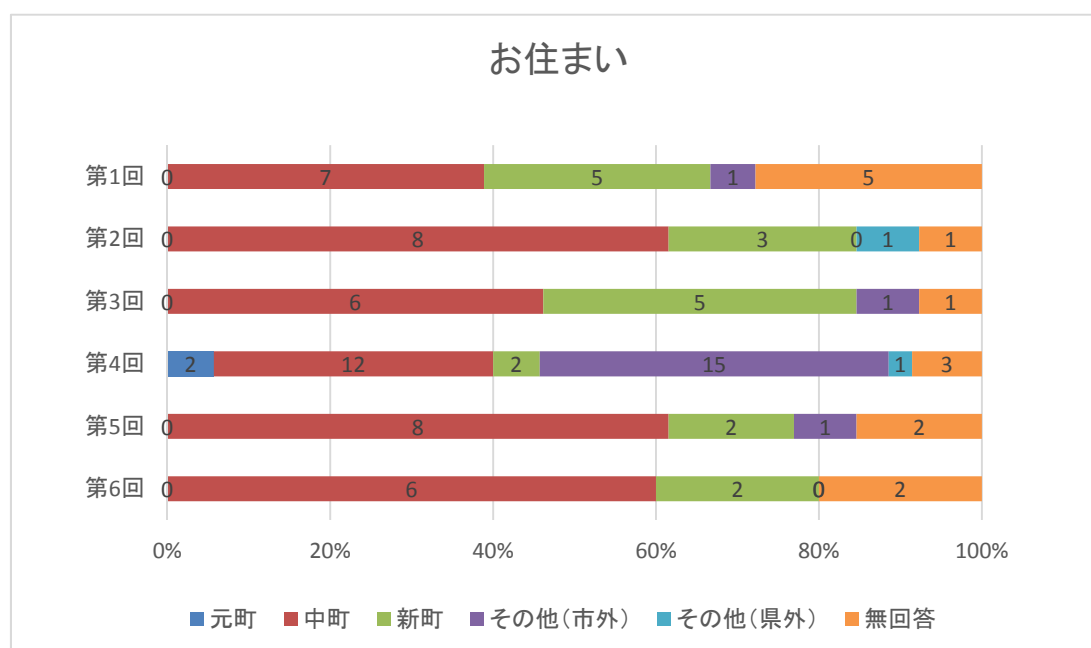
講座参加者アンケート

連続講座の評価を目的として、各回の参加者に対して、講座の満足度、講座を知ったきっかけなどを訪ねた。回答数など概要は以下の通りである。

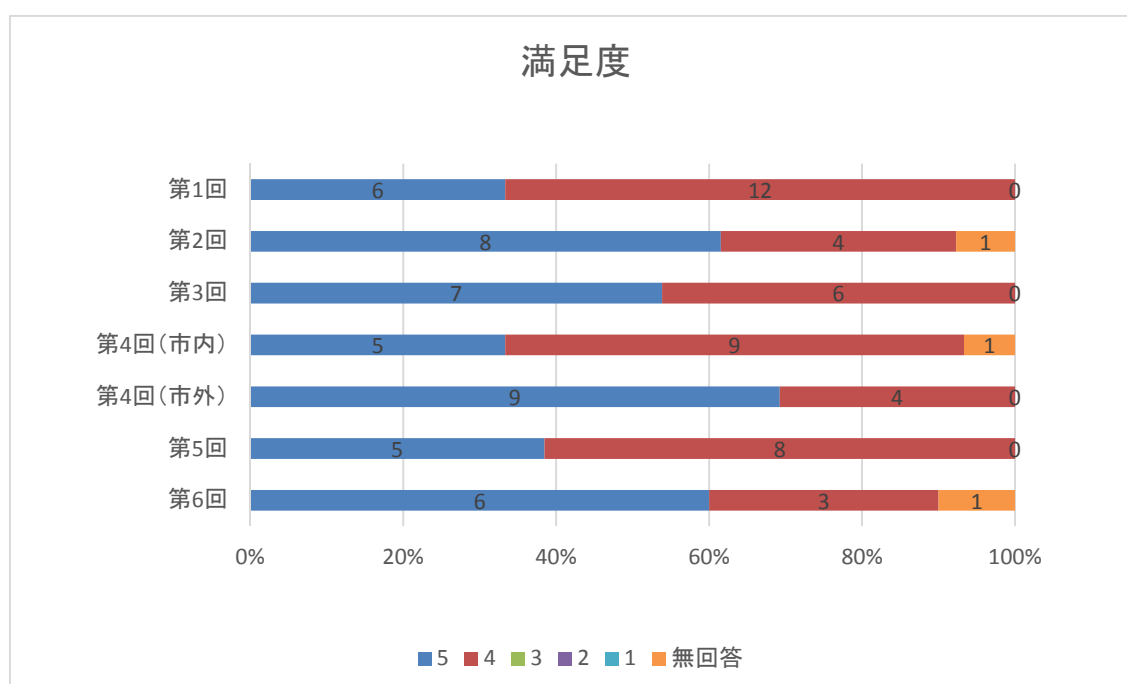
■各回のアンケート回答数

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回			第 5 回	第 6 回
			全数 (無回答含む)	(市内)	(市外)		
18	13	13	35	16	16	13	10

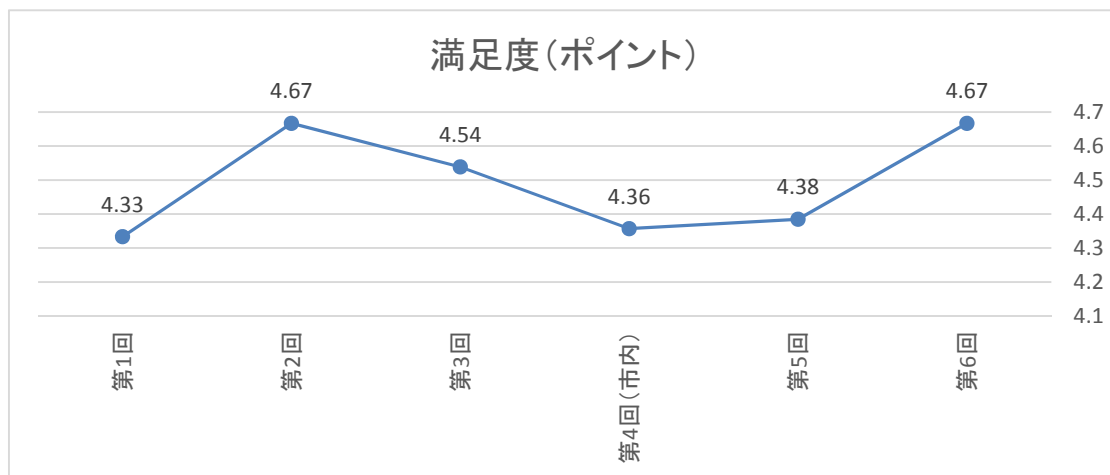
■第 1 問 参加者の住まい



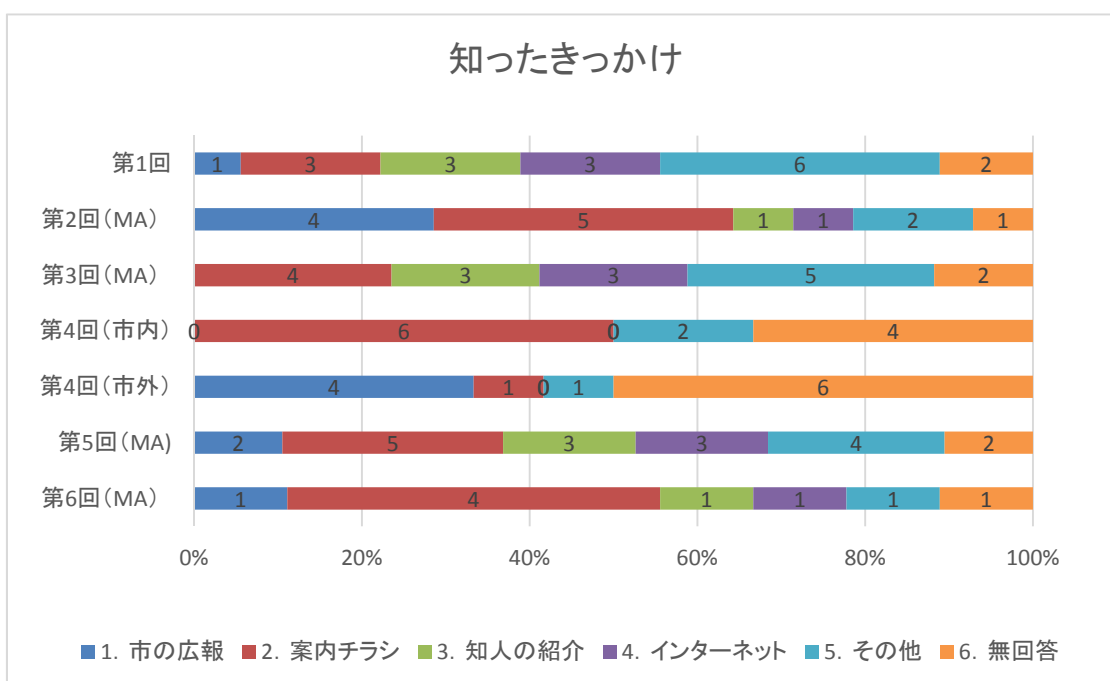
■第 2 問 参加の満足度



参加の満足度（ポイント）



■第3問 参加のきっかけ



■各回の自由回答

第1回 問2：まちあるき感想
3. 11以降、浦安への愛着が一層増えた印象を受けました。緑=景観だけではない切り口もあっていいのではと思います。
まちづくりにおける行政の役割の大変さ、重要さがよく分かりました。そのためには行政の導くプラン・ルール・条例制定が的確に的を得ていなければならないと感じました。
これまでの行政の取組を分かりやすく説明していただき、よく理解できました。
景観のイメージがつかめた。
浦安の景観行政についてよくわかりました。
参加者の都市・土木・建築系専門家の多さが驚きでした。
景観に熱心な人が多いと思いました。
現在に至るまでの景観法の流れ←事例があったから／面ではなく深みのある歩道植栽の事例←写真でわかりや

すい／地域シンボルを民間ではなく公共でつくりやすい環境が必要ではないか？
参加している方々の熱心な意見にびっくりしました。
浦安はディズニーランドというイメージでしたが、景観計画を聞いて5つの区域があることを知り、新旧のまじわる興味深いまちだと思いました。実際に見てまわりたいです。
浦安市に景観条例ができた当初の話
景観の難しさがわかった。具体的な事例がわかりやすくてよかった。
景観に関し、行政ができることはわかったが、市民ができることと、その有意性はもう一つ疑問が残った。
景観計画の策定背景。
景観に対する担当者の熱意とフォーラム立ち上げに携わった方々に敬意を表します。
「景観マスタープラン」策定の流れがなんとなくわかり、参考になりました。
都市計画課の方の手続案件への事例紹介。自分の身近な場所で、あのような指導が行われているとは想像していなかった。

第1回問3：講座感想
市の発展、経済効果をもたらす都市景観の構築ができれば・・・夢ですが米国のサンアントニオみたいな街になれば・・・。
街のイメージということと「景観」は密接なつながりがあることに気づかされました。浦安の街として良いイメージを目指すなら、ダイナミックな構想を視野に入れたいです。
特にはありません。
景観の評価の仕方がこれからの課題と思う。街づくりは時間軸が大切と思う。これからの景観まちづくりとこれまでの景観まちづくりをどうするかを別に提案すべき。
景観の形成・維持していくには、かなりの時間がかかるということが再認識できました。
生け垣など各町の協定作りの促進が必要と感じました。
浦安景観のイメージを持つべきと思う。他市にない独特な街に。
めざすものが具体的にビジュアルで分かると良いなあと思いました。
参加者の方も言うておられましたが、今回の講習で学んだことがどのような形で行政に組み込まれるのかということが気になりました。
市役所で指導をした事例。かなりの改善が行われているのだと思いました。
戸建てでの緑化事例
参加者の前提知識がいろいろなので、景観とは何か？浦安市での状況、フォーラムの目的などご説明いただければよかったと感じました。フォーラムの資料が市役所への提案資料だったのが気になりました。
まちづくりフォーラムの活動内容は啓発活動であるとする、どこまで実行力があるのか疑問。もっと具体的な結果を出す事業を考えるべきではないでしょうか。
市の指導方針を事業者ではなく、市民にどう分かりやすく説明できるか？
風景が中心になるのはわかりますが、人がなぜ笑うのかの視野がもっと欲しい。スポーツ健康都市としての興味からもお願いします。
具体的にどういう形で景観が実現するのか興味があります。
景観マスタープランの作成過程についてもっと知りたいと思いました。

第1回問4：自由
定年になりました。比較的時間がとれます。行事にできるだけ参加したいと思います。
行政の示した方向性などというのは時間の経過や住民のゆっくりとした意識の変化を待たないと真に根付いたものにはならないと感じました。
これまで景観についてはあまり問題意識を持っていませんでしたが、これを機会に勉強させていただこうと思っています。
これから可能な限り参加させていただきたいと思います。
毎回申込みは面倒くさい工夫をお願いします。
他の具体例がたくさん見られると良いなあと思いました。
ありがとうございました。
3項での書き込み通りです。
知っているようで実は知らない浦安をよく知りたい。
第2回問2：まちあるき感想
水辺の会の皆様のご案内で境川を見ましたが、水もだいぶんきれいになっているようですが、もう少し市民が楽しめる工夫をもう1歩進めて欲しいと思いました。
水門の役割が境川における大事なものであることがわかりました。川に親しめる生活を実現させたいです。
浦安市に26年あまり住んでいますが、元町をじっくり歩くのは初めて経験し、有意義でした。その中で水辺に親しむと言いながら、立ち入り禁止が多く、難しい問題だと思います。
境川沿いの家屋がこの10年で見苦しい点の改善が相当進んだ。公共工事の責任範囲も同様。また町の隅々にゴミや雑草が少なく、今日歩いた状況が毎日とすれば、管理が大変だろうと思ってしまいます。と同時に、管理費用や手間を掛けずに維持できていれば驚きです。
河川・街が汚い。河川のゴミ(清掃は日常的に)。空き地が多い。
境川西水門で、旧江戸川と境川の水位の違いを実感した。地盤沈下がそんなに進んでいるのは怖いと思った。境川の水が依然汚く、時々どぶ川の臭いがしたのが気になった。水辺に降りられないならチェーンは不要ではないのか？
境川沿いを歩くと安らげる気持ちになると改めて感じました。水辺の会の方の説明もとてもわかやすく良かったです。
国道の近くの橋の絶景ポイント。最後に渡った西エステートの近くの橋から見た新町の景観等々。浦安に25年住みながら知らなかった道・橋。
水辺の会のメンバーの説明に加え、江沢さんの地元ならではの話が聞けたこと。
午後から参加しました
トイレがなかった。宇田川家・大塚家にあるが、立ち寄りなかったので困りました。浜野家はどうですか？町歩きには必要だと思います。また、とっさの雨・雨宿りの場所もない。川辺の住宅には木が少ない。水・緑の景観が必要ではないのか。江戸川の親水公園は素晴らしいものです。浦安の公園にビオトープがあるのは少ない。水・緑があってこそ生物の生育には必要なものです。
水際のせっかくの親水場所が鎖により入れなくなっており、やはり管理面を優先せざるを得ない？もう少し工夫できないものでしょうか？(全部でなく、人の目が届く曜日・時間限定で、危険が少ない箇所を2・3カ所開放するとか)

第2回問3：講座感想
水に囲まれた浦安市の河川・海は県の管理で、高潮対策・護岸対策が県の取り組みで、水辺のまち・親水のまちづくり

にはまだまだと思いました。
公園・緑の江戸川区のオペレーションの先進さに驚きました。浦安もボランティア・造園会社・行政・もっと密にタッグを組んで、管理を進めて行けばと思いました。
江戸川区のような住民主体の取り組みが浦安では未成熟だと感じました。行政がそのような取り組みをバックアップすることが重要だと思います。
水辺の親水性と安全性の問題が深く考えられて参考になりました。
江戸川区の事例は参考になった。
江戸川区の活動は隣なのに全く知らなかった。時間を見つけて自転車で回りたいと思う。
江戸川区の先進的な取り組みを教えていただき、参考になりました。
江戸川区の古川親水公園など、魅力あふれる街々にすっかり魅了され、行ってみたいくなりました。これまで、区民の人々の気持ちを、愛する気持ちに育て上げた中里区長、博士論文を書いた人の情熱とリーダーシップ。そしてその意思を継続できた財団を残してくださって予算がいただけたこと。江戸川区が羨ましくなりました。
協働の発展の方法。つながるつながり方。
特に江戸川区の水と緑のまちづくり事例はすばらしく、大いなる刺激を受けた。
講座の趣旨とは異なりますが、サイクリングロードの設置について異論ないが、そこまで行くのに歩道通行しています。しかし、歩道と歩道の切れ目に段差があります。自転車・ベビーカーの使用の多くなった最近では、段差時のショックが大きいので、法律でこのようになっていると行政側ではいい、取り合っ下さらないのが現実です。法律などと逃げないで、現実を踏まえて段差をなくした安全な道にしてください。視覚・聴覚障害者用ブロックも車輪が取られる。危険である。
舞浜海岸の自転車道計画を是非早く実現して欲しいです。全く知りませんでした。護岸工事が景観と両立しつつ、高潮対策と津波対策をも兼ねた機能を持てば素晴らしいです。
やはり海や川をながめる、対象から生活の一部・親しみ楽しむ場所にするための取り組み・工夫が今後に求められていると強く感じた。

第2回問4: 自由
江戸川区の力強い取り組みに感銘を受けました。江戸川の3分の1の面積・人口の浦安ですが、近い環境のお隣の取り組みを参考にして取り組めたらと思います。
すばらしいコメンテーターばかりで、お話が全て役に立ちました。
三方を水に囲まれていながら、子供たちが水に親しむ場が少ないと感じました。景観とは、単なる景色ではなく人が観じるものだと思います。その源は水で遊び、或いは怖い思いも含めた経験にあるのではないのでしょうか？景観を愛し、これからこれを守るためのモチベーションの第1歩が子供たちに水とともに遊べる場を作ることだと思います。
①境川が10年前に水が浄化され、魚の棲める水質に変わっている。②川辺護岸のシートパイルがタイル貼りに変わり、補石も整備されている。が草取りや掃除を誰が行うか？①に対して、次の段階へどう進むべきか考えてみる必要がある。1、釣りを奨励する2、水鳥を増やす3、アヒルの飼育を奨励する4、・・・②に対して水辺の美化・草取りなどを近所の人たちが喜んで積極的に行える方向に持って行けないか。
舞浜のビューポイントのことは意識したことはありませんでした。自転車か徒歩で観に行きたいと思っています。
次回も参加したいと思います。
参加の方の質問・司会者の方の質問。水辺の会の方々のご努力に浦安のこれからが楽しみです。
みどり水辺の「うらやす百景」を市民募集し案内ガイドを作る。
本日の境川はややきれいでしたが、これから真夏になると例年水が茶色になっています。管理をきちっとお願いしたい。

水辺を使っても、水がきれいだと気持ちがいいですね。E ボート・和船の浦安の新しい景観を期待します。

大変良かったです。また機会があれば夫婦で出席したいです。

第3回問2：まちあるき感想

弁天ふれあいの森公園にはじめて行きました。素晴らしい公園で、管理運営されている皆様の意気込みが伝わる施設でした。

街並みの中で当たり前のように存在していた街路樹を改めて意義を見だし、より演出の良いものにするには、どうしていけば良いかを確認できました。

弁天地区の生垣が手入れの差によって往年の美観が損なわれているのが残念だった。十数年前に住んでいた頃とは大きく様変わりしていました。

これまで足を踏み入れたことがない初めての地区に立ち入りよく理解できた。それぞれの特徴があり良かった。平素用も無く、立ち入ることも難しいばしょもあったと思います。

弁天ふれあい公園の芝生で乳児が寝ころべるスペースがあるのには感心しました。

- ・UR 住宅がしっかりしていて素敵だと思った。
- ・苔は素敵だと思っていたが、実はその下の土が死んでいると知って驚いた。
- ・生垣にカイヅカイブキが多いことを知り、コミュニティ全体を考えて手入れを考えなければならないと思った。

ふれあいの森の裏方が見られて楽しかったです。会員いなくてかつどうしたいとも考えました。

市として緑に対して積極的に取り組んでいる事実、しながら、時間の経過や震災後の環境変化により解決し難い問題も多くあることを実感しました。

カイヅカイブキのせり出し等は、車だとあまり気付かなかったが歩道は結構気になった。

第3回問3：講座感想

緑も適当な量で管理する必要がある事、萌芽更新での管理は興味を持ちました。

雑草を抜く事のデメリットは驚きです。

街にとって大事な緑の役割がわかりました。

緑のネットワークについて、これまではよく知らなかった取り組みがよくわかった。

高層マンション地区での緑化のあり方についても考える必要があると感じた。

緑の景観まちづくりのテーマ、現状の問題と目指すものは何ですか。

初めて防災を考慮した樹種の重要性を知りました。(塩害・防火)

- ・ふれあいの森の会員になろうと考えること早数年。里山クラブに入会したいと考えています。
- ・海風に強い木となると、熱帯の木が多くなっているとのこと、猛暑からか……。リゾート地と生活圏との違いは？(タブノキ、エノキ共存できるのか？ヤシの木)

集合住宅における美観・環境の方向性の合意形成の難しさ、住民参加で何に取り組むことができるか、課題が多いことをあらためて知らされました。

カイヅカイブキ塩に強いが燃えやすいとか、シマトネリコが侵略的樹種など、普段気にしなかったこと、視点が明らかになって勉強になりました。

第3回問4：自由

浦安も団塊の世代で、定年を迎へ、自由な時間を持った人が増えている(自分も含め)、街の植栽の管理に高齢者に抜いてもらったらどうか。

専門の教育講座を開いて、協力者を増やす事を考えてみたいかがですか。
講座の中での考え、学び、全て我々の浦安の魅力を増すことに繋がっていくので、真剣に向き合い様々に気付けるグローバルな思考を持ちたいものです。
現在の復旧工事でどの程度緑化が考慮されているか疑問に思う点もある。
維持管理上の問題とか、近所に住む人の問題は何かとか、問題がよく判らなかった。
大変役に立つ講座をありがとうございます。
たずさわってくださる方々に感謝申し上げます。
・ 中町住宅内の児童公園の回収依頼 ・ 高齢化した老人が多く、児童少数である。健やか老人（保険課）からの助言あっても安全に外出（近場）を確保したいので、それが公園である。
鉢土の植生基盤の循環は大きなテーマだと思いました。
後藤さんの活躍の話が面白かった。植物の話、弁天の公園を見ることができてとても面白かった。

第4回：2問（戸建地区について）
各地区とも高齢化で、次世代への引き継ぎで課題がある。戸建て地区は震災の影響がまだ残っており、復興が急がれる。碧浜の景観は素晴らしかった。
復興の最中ではありますが、ディベロッパーの建てた家と、ハウスメーカーが建てた家が混在する時期にさしかかり、異なる都市計画運営の必要性を感じました。
古い団地、新しい団地の特徴がよく理解できた。
液状化による外構構造物の修復が進んでいないことが分かった。市の地盤改革事業との兼ね合いがあり、個人での修復をためらっているのだろうが、塀の傾きは外来者に対するその街のイメージを大きく損なわせる。
碧浜地区：区画・家屋のデザインが統一されている。非常に景観性に優れている。
震災の影響が本当はまだ残っていて、魅力をそこなってしまうと感じた。
各地区に震災の跡が今でもあった。道路も足で歩くと修復されているが、本修復が一日も早く望まれると思った。新しい家には少し緑が少ないと感じた。防犯対策としての理由もあると思うが）。地区によって違いはあるが、ある程度統一されえおり、浦安の良いところと思った。
高齢化による変化をどのように今後対処するのか？
美浜4丁目界隈には、正直言って魅力を感じませんでした。高齢化進行の気配を感じ、活力を感じられません。住宅街のブランドイメージの維持のため、新住人をあまり受け入れたくないのでしょうか？中町地区の戸建地区は「古くもなく新しくもない街並み」という感じで、今後発展する可能性を感じられません。

第4回：2問（集合住宅地について）
浦安地区の集合住宅は母体がしっかりしており景観的にも良い状態で管理されていると思う。戸建てと同様、少子高齢化で小学校の廃校など問題も多い。次世代に向けて継続できる環境・景観を期待したい。
植栽の管理において、より高度に建物を引き立て、美しさを演出することのできる管理会社にお世話になるのが先決だと感じました。
市による細街路の復旧工事は今年後半に一気に進むとの話だが、私有地の塀の傾き改修は進まないと思う。浦安のイメージアップのためにも地盤改革事業とは別の傾き改修を進める策を進めるべきではないか。
入船北エステート：樹木が非常に多く、かつ整備されている。落ち着いたたたずまいが非常に魅力的。
のびのびして歩いて歩いていると心が晴れる。安心感がある。

入船北エステートの景観は美しいと思いました。四季を楽しむ工夫が建設当初から考えられていたのだなと感じます。

第4回：2問（公共空間について）

集合住宅内の公共スペースの管理で、行政の補助など費用がかかる維持管理への助成があるのでしょうか？

社会・住人を結びつける大事なアイテムってあると思います。多くの人が語らい、集えるにはどのような形態であれば良いかを考えたい。

入船北エステート他で落ち葉を片付けている住民の姿が印象的であった。（鮮やかな紅葉の中での）

浦安の大規模団地の公共空間はとても優れている、美しい、楽しめる、広い、心地よい、きれいだと思います。

公開空地は意外と市民には知られていないため、もったいない。市民が使うためにつくられたはずの土地を市民が使う以外にはあ使えない。

第2湾岸建設予定など、今後の活用方法が気になりました。

第4回：3問PD

住民意識の高さが素晴らしい環境を維持できていると感服しました。

「景観を考える」と「景観を実現する」は大きな隔たりがあることを切実に感じました。現実の良い景観を具現化するあたり、地域の選ばれた携わる方々の妥協なき取り組みが欠かせない。きれい事では済まされない活動が不可欠だと感じました。

何を目的にどう活動した事例であるのか問題点が今少し理解できなかった。

入船北エステートや西エステートの低層集合住宅地は緑豊かで美しかった。緑が多く住民が大事に維持している。愛着が生まれている。緑は共有管理の方が守れる。（戸建地も染井野のように）緑はコミュニティ形成維持のきっかけになりそう。染井野は町並みが美しい。浦安の公共空間と集合住宅地の景観差の問題は何があるのでしょうか。（戸建地はよくわかりますが）

他市（幕張ベイタウン、佐倉、染井野）の事例が新鮮で参考になった。浦安市はデザインの視点やセンスが上記他市と比べて弱いように感じた。

戸建の庭に植える木の種類を揃えると街並みは見かけがきれいでびっくりしました。

幕張ベイタウン：ゴミ処理・街路樹のデザインは浦安に是非導入したい。

作法・不作法がある～人間性・品格（まちのブランドづくりへ？）

住民と行政がまあちをよりよい環境にもっていこうと私の知らないところでやっている・取り組んでいることはすごいと思った。「景観はまちの健康状態」という言葉はとても理解しやすいものでした。

幕張ベイタウンの景観はインフラにのっかったものでしかないのでは、参考にはならなかった。（コミュニティ活動としては理解していますが）

住民の合意形成の難しさを説明して欲しかった。

幕張ベイタウン協議会の辻さんのお話が印象的でした。「まちづくりからまち育てへ」→次世代へつなげていくまちづくりを感じます。住環境の充実と魅力と活気あるまちづくり、景観の整備をうまく両立させた幕張の事例を見ることができました。

第4回：4問ディスカッション

景観をよくする、維持する…住民の意識付け。

地域住民での合意形成の難しさを痛感しました。景観の重要性の啓蒙が必要。

既に染井野 S1 地区のお手本があるということを知って心強かったです。染井野 S1 地区の「今後の取り組み方針と課題」を重く受け止めました。
佐久間先生は抽象的でポイントがよく分からない。水溜・吉田両氏は活動されてきたことがよく理解できた。連合会長はそのものズバリ。住民の危機意識にはきっかけ・火種が必要(大塚氏)の意見は貴重→他所の悪い例の広報・収集が必要と感じた。
「危機が訪れてでは遅い」とても印象的な言葉でした。東日本大震災の時、どこまでが埋め立て地かということを知らなかった。新住人が多く、いました。そのあたりを知っていれば、今の復興計画はもっとスムーズに進んだのではないかと思います。

第 4 回 : 5 問自由
浦安のまち歩きを観光資源に。小生、若い頃、米国の新興都市の視察に行き、感銘を受けた経験があります。日本を目指す海外の若者へ有料で景観ツアーを実施できたら良いと思います。ディズニーと合併ツアーとして。
良い景観は何かという点がよくわからない。人によって「良い景観」に対する考え方は大きく異なると思います。つきつめた話・具体的な問題について語り合うと、考えの違いが大きく、合意しあえないだろうと思います。
○日本全国(佐賀県以外)場所によって何度も歩きましたが、浦安は県外の人、外国からも人が集まりますが、あまりきれいではありません。雑草も生え放題、伸び放題(市役所の回りも)。金沢や富山駅から広く、松本も etc. 何回行っても街がきれいです。○車道を走っている自転車は大変危険だと思います。夜など特に。○自転車道を日本全国統一になるように浦安発で→千葉へ→日本全国へ(ペイントでブルーで)(緑は歩道に使われているところがありますので)(25 年くらい前、オーストリアのウィーンであったのです)○ゴミの分別も日本で始まるより 15 年くらい前にドイツではやっていました。日本の政治家や行政からの視察に行かれている姿をよく見かけましたが、良いところを取り入れる様子もなく…。
幕張ベイタウンが羨ましいと思っていました。みんながよい街だと思っていることの危険を感じました。とてもイベントなど元気な街のようですので、大丈夫だと思います。
人の意識を醸成するには、幼児からのしつけ・教育が大切。町歩きなど小学校から教育してゆくべきと思料。小林フォーラム会長の「景観は育てるもの」とうのはとても良い表現。
「古くもなければ新しくもない街」中町地区(特に戸建部分)にそんな印象を持っています。閑静で緑豊かな住宅街というイメージ作りも大事かも知れませんが、「活気あるまちづくり」も必要だと思います。美浜 15 自治会のまちづくりガイドラインでは若者が寄りつかず、スムーズな世代交代ができず、高齢化が進むのではないかと思います。「住環境の充実」と「活気あるまちづくり」を両立させる必要があると思います。

第 5 回問 2 : まちあるき感想
私有財産である土地建物と公共空間としての都市景観との調和・調整の難しさを感じた。大規模集合住宅や戸建て分譲地は調和が取れているが、商業施設・個別住宅では景観上の問題点が多いことを知った。
維持管理の不足による景観の損なわれていること。1 年前の春修理、作り替えられたやなぎ通りの歩道の緑地帯がほとんど全て壊されていること。植えられたつつじが折られたり、枯れたりしている見苦しさから感じることは、住民や土地所有者の皆さんの意識不足と感じます。建物の外壁や看板の色などで目障りといえるほどのものは見当たらなかった。
建て替えが多く、街並みが破壊されている。空き家が少なく感じた。景観に留意しているとは感じなかった。景観を議論する前の住民への啓発が必要であると思った。住宅のフロントヤード・バックヤードをもっと議論する必要がある。ファサードも含めて。

トヨタ看板の工夫～「さすがに世界一の企業」と宣伝効果大。思い切ったデザインの家（壁材が金属系）～10年・20年後どうなるのか？メンテが心配です。「回転寿司店」の色合い～工夫次第で確かに落ち着いた。おいしいイメージとなります。素材の良さを活かす為には壁の色を薄くするとか、オレンジが落ち着くなど、きちんとした説明を受けて納得しました。
戸建ての塀の傾き。やなぎ通りの雑然さ（色が多すぎる・街路樹が貧弱である～あきらめているものではあるが・・・
初めて訪れた街が多くありました。ディベロッパーが開発した住宅地は整っている反面、1ルームアパートもないので多様性に欠けているのが気になりました。多様性を持ちながら街としての一体感みたいなものが作りうるのか？興味がおこりました。
具体的な話ができてよかった。色彩論のお話は詳しく、参考になりました。
景観の維持改善のための基準が示されていることを認識できた反面、現実とは形ばかりの対応も多いことがわかりました。
車で走り回っておりますが、話を聞きながらとはまた違った良いことだと思いました。
色彩・形状・大きさ・材料（質感）の統一感がある地域・街並みは非常に美しい。統一感の重要性を再認識した。
いろんな意見があり、景観の計画性が必要と感じた。計画的につくられても、時がたち、人が変わると変化してくる。無柱化・千葉トヨタの景観（見る位置により違う）など気がつかなかった。
実際に現物件を見ることは大きな意義と思います（百聞は一見に如かず）。
カラーコンサルタントの先生や、町作りコンサルタントの先生、フォーラムの役員さんたちと一緒に町歩きでの解説が非常に参考になりました。水路や跡地活用としてのアパート、戸建て、マンションなども歴史を感じるものでした。やなぎ通りの広告・看板の色づかい・面積や高さの事前協議などルールづくり（景観）が進んでおり、マネジメントのある（品格）まちづくりの印象を受けました。
フォーラムの企画と町歩きは大変でしょうが、年に3～4回継続していただき、座学と連動した知識と生活の知恵・工夫を習得させていただきたい。

第5回問3：講座感想
設置者の好意的協力での景観維持では対策が進まないのでは・・・。対応物件への助成金や税法上の優遇が必要なのでは？また、逆に違反物件に対するペナルティも強化する必要もあると思う。
街並みのデザインコード・色彩コード・素材コードが重要と思った。浦安の品格とは？品格のあるデザイン、色彩、素材が浦安の品格か？みちなみ・へいなみ・にわなみ・いえなみのコードが十分でないと感じた。うらやす景観デザインマニュアルで住民を誘導できるか考えてしまう。
URの美浜団地境界の緑撤去は景観条例協議対象ではなかったか？景観改善への税金投入はできないのか？本気度は？景観改善事業の（他事業との）優先順位は？本気度は？屋外カーポートも指導対象か？
個別の案件で景観を配慮した取り組みが行われている割に、例えば新浦安の新設した駐輪場のような事例が何故あるのか疑問です。
市役所の方、声が少し小さすぎる。
青は実体のない色・・・なるほど！
よく準備していますね。企画がしっかりしているように思いました。
1部：街並みと色彩（福島先生）：具体的な海外事例を本日の街並みとの対比でわかりやすかった。2部：景観形成基準の主な事項（浅川先生）：全国の街並み・景観形成の写真と資料が非常に参考になりました。3部：事前協議の事例と仕組みは素晴らしいと思いました。市の職員さんの苦勞に感謝したい。今後は本件の事例を参考に住民

へ啓蒙と一貫性のある判断を継続下さい。

第5回問4：自由

町作りの基本である都市景観の改善については、行政の強い意志と指導力を期待します。

一戸建て住宅・マンション・商業などの色彩の違いがよく分からなかった。住宅の品格について議論する必要があるのでは？住民に対する啓発がもっと必要と思う。景観基準を分かり易くいして欲しい。基準か何か。

電線の地中化は国も推進しているが、浦安はそれを利用しより先導的に進めてはどうだろうか。既築の戸建て地（「計画地・非計画地ともに」）は、地区・ブロックごとに誘導、垣根を決め、その整備費を補助したら景観はかなり向上するのではないか。もちろん、景観規制で新築時の形態・色彩・規制は一番大事だが、スピード感がない。

問題点を討議できれば・・・

景観の問題を個人の努力や意識に求めるのでは、良い状態に持って行くのはかなり困難であると思います。

自転車道をもっとはっきりとブルーでペイントを！ 日本全国へ浦安市から発信して下さい。歩道のできる場所から。（歩道・白で分ける・ブルー）

第6回問2：まちあるき感想

元町地区へ興味を持ちました。個人的に元町歩きをしたいと思います。

タウンミーティングがよかった。

市役所の近くの橋から中町方面を見た時の景観。

本日なし

何十年も住んでいて知らないところ・新発見があり、まず自分の町を知ることが必要と思う。

何かが発見できるまち歩きでした。

まち歩きには参加できていません。

第6回問3：講座感想

景観対策の奥深さを感じた。市民レベルでできることを考えていきたい。

時間が少なかった。

元町景観調査報告は参考になりました。

「住みたい街上位を目指す」市の施策に、何ができるが活動目標になるのではないのでしょうか？ 各エリア（元・中・新他）別の魅力アップにつながる景観とは？

窪田先生の浦安市民への期待して下さるアドバイスは嬉しいことです。震災後からの立ち直り、そして以前以上の良きまちづくりになればと思います。

防災と景観が日常あるものからできてる。震災を風化させないためにも継承。

とても勉強になり、まちづくりに対し、また希望がわいてきました。

第6回問4：自由

継続してやって欲しい。

来年度以降もよろしくお願いします。

来年度も期待しています。

もっと多くの市民を巻き込めたらいいと思いました。